

大会要項

第 33 回全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会北海道ブロック大会

第 44 回十勝地区国際理解教育研究大会

第 2 回帯広市立大空学園義務教育学校公開研究会

第 44 回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会

大会主題

多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成

～世界と関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～



期日：令和 5 年 11 月 1 日（水）～ 2 日（木）

会場：帯広市立大空学園義務教育学校

JICA 北海道・帯広 / 森の交流館

開催：会場と YouTube ライブ配信によるハイブリッド方式

第 44 回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会実行委員会

目 次

1 挨拶

- 北海道国際理解教育研究協議会 会長 小松裕和・・・1
- 北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会 実行委員長 野中利晃・・・2
- 帯広市立大空学園義務教育学校 校長 村松正仁・・・3

2 開催要項

- 開催要項・・・5
- 開閉会式・全体会・・・6
- 公開授業・授業別分科会・・・7
- 大会会場図（帯広市立大空学園義務教育学校）・・・8

3 基調報告

- 第44回十勝地区国際理解教育研究大会に係る研究の概要・・・9
- 帯広市立大空学園義務教育学校 研究紀要・・・17

4 公開授業指導案

- 第1学年 生活科 学習指導案・・・21
- 第4学年 総合的な学習の時間（国際理解） 学習指導案・・・25
- 第5学年 国語科・総合的な学習の時間（国際理解） 学習指導案・・・28
- 第7学年 理科 学習指導案・・・33
- 第8学年 総合的な学習の時間 学習指導案・・・37
- 後期課程知的学級（第7～9年生） 生活単元学習 学習指導案・・・42

5 大会役員名簿

- 令和5年度 北海道国際理解教育研究協議会 役員名簿・・・45
- 令和5年度 北海道国際理解教育研究協議会 事務局名簿・・・46
- 令和5年度 北海道国際理解教育研究協議会 各地区役員名簿・・・47
- 令和5年度 北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会 実行委員会名簿・・・48



明るい未来を創り出す「生きる知恵」を

北海道国際理解教育研究協議会

会長 小松 裕 和

(札幌市立中沼小学校長)

新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、社会活動も以前のような活気を取り戻してきました。この移行に伴い、海外からのインバウンドも増加し、全国各地でうれしい悲鳴が聞かれています。北海道においても、国内外からの観光客がたくさん訪れるようになり、至る所で日本語に交じって英語、中国語、韓国語などが耳に飛び込んできます。このような光景を目にし、「やっと元に戻った」と実感しております。ただ、近年は世界中で台風が猛威を振るい、洪水を引き起こしたり、雨が降らず大干ばつになり、山火事などの災害を引き起こしたりと「想定外」の連続になっていることに危機感を覚えます。その原因の一つは「地球温暖化」と言われ続けていますが、未だに改善の方向が見通せない状況です。私たちは、このように子どもたちを取り巻く環境が悪化の一途をたどっている現状を踏まえ、未来に向けて「今できることを考え、小さな一歩から行動する」学びを子どもたちと一緒に構築し、夢のもてる社会にしていく必要があると考えています。

さて、今年度は第44回北海道国際理解教育研究大会を十勝地区帯広にて参加者が会同して開催できますことに大きな喜びを感じます。また、本研究大会の開催にあたりましてご指導ご助言を賜ります北海道教育委員会様、帯広市教育委員会様をはじめ、関係教育団体の皆様、大会運営を主管しております十勝地区国際理解研究会の関係者の皆様には心から感謝申し上げます。

本会の大きな活動の柱を見直してみますと、第1に国際理解教育を窓口とした授業研究を通して、子どもたちに多様性や様々な価値観の尊重、コミュニケーション能力の向上などグローバル社会を生き抜くための「生きる知恵」を身に付けながら問題を解決していこうとする姿勢や心を育てることにあると読み取れます。このことは、本会がこれまでの活動の中で脈々と受け継いできた「人間尊重の教育」といっても良いのではないのでしょうか。また、今年度の開催地である十勝地区では、国際理解教育のカリキュラム・マネジメントとして「国際理解 BASIC」を積み上げてきました。このような取組についても、研修の中で学ばせてもらい、自地区へ還元できることが期待できます。第2の柱として、在外教育施設に興味のある方々や派遣を希望される方々への支援や助言を通して、在外での有意義な研修を積んでもらい、帰国後にはその内容や活動を地域に還元してもらうことにあると考えます。令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症のため、活動を自粛していく中で会員相互のつながりが薄れてきましたが、会同する全道大会を機に再び「つながり」を構築し、活気ある研究団体にしていきたいと思っております。

最後になりますが、今年度は11月1日(水)～2日(木)の2日間の日程でJICA北海道・帯広、帯広市立大空学園義務教育学校を会場に施設見学や公開授業をもとに子どもたちに付けたい力や学びの在り方を研修していきます。会員の皆様をはじめ、多くの方々にご参加をいただき、有意義な研究大会にしていきたいと思っております。皆様のご協力をお願い申し上げます。



再び始動した会同による研究大会の成功を願って

第44回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会

実行委員長 野中利晃

(帯広市立帯広小学校長)

記録的な猛暑となった夏が過ぎ、広大な十勝平野は、今まさに実りの秋を迎えています。

このたび十勝地区が主管となり、4年ぶりに会同にて「第33回全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会北海道ブロック大会」「第44回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会」を、併せて「第44回十勝地区国際理解教育研究大会」「第2回帯広市立大空学園義務教育学校公開研究会」を開催できますことを大変光栄に感じておりますとともに、全道各地からご参集くださいました皆様を心より歓迎いたします。

本来であれば「北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会」は、令和2年度に帯広市立明星小学校、帯広市立帯広第四中学校、とかちプラザを会場にして開催する予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で北海道大会は中止となり、十勝地区のみでオンライン大会を開催しました。その後も北海道大会は昨年度の釧路大会（オンライン開催）まで中止が続いていましたが、十勝地区では国際理解教育の灯を絶やさぬように、毎年地区での大会開催を軸に研究を継続し、本年度へと繋げてきています。

研究主題として「多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成～世界と関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～」を掲げ、釧路大会の成果を継承しつつ、カリキュラム・マネジメントと国際実践力の育成を視点を据えた授業づくりを進めてきました。また、今回会場校をお引き受けいただいた帯広市立大空学園義務教育学校の校内研究とリンクさせ、本実行委員会研究部やJICA帯広とともに、研究内容の深化を図ってきました。本大会では、義務教育学校の前・中・後期課程合わせて6本の授業を公開します。ぜひ、会同ならではのご自分の視点で授業を参観し、膝を突き合わせて討議し合い、研究と思いを深め合う大会となれば幸いです。

また、本大会の運営は、これからの時代を見据え可能な限りスリム化を図っていくこととし、「1日日程」、「会場は大空学園義務教育学校1カ所のみ」としました。さらに、研究紀要等のデジタル化を行い、会費ゼロの運営に挑戦しています。

さて、現代社会は、感染症問題や環境問題、エネルギー問題、紛争等、世界のどこかで何かが起こると、すぐ私たちの生活に直結し影響が出るほど、グローバル化が進んでおります。その傾向がさらに進むであろう未来社会を生き抜く子どもたちにとって、最も重要な役割を担う教育の一つが国際理解教育だと考えます。

本大会にご参集の皆様には、忌憚のないご意見やご助言を賜り、北海道国際理解教育の研究が深まる実り多き大会となることを期待しています。

結びとなりますが、大会開催にあたりご支援いただきました、北海道教育委員会、帯広市教育委員会、JICA北海道・帯広を始め、多くの関係団体の皆様、そして、会場校をお引き受けくださった帯広市立大空学園義務教育学校の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げ、実行委員を代表してのごあいさつとさせていただきます。



大空から広がる未来

帯広市立大空学園義務教育学校 校長 村松 正 仁

歴史ある第44回北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会を、オンライン配信を含め道内各地からたくさんの皆様にご参加いただく中、ここ大空学園義務教育学校において開催できますことを大変嬉しく、心より感謝申し上げます。

帯広市立大空学園義務教育学校は、昨年4月、施設一体型の義務教育学校として、開校いたしました。学校経営の基本姿勢を「子供の力を信じ、教職員が助け合う学校」とし、全ての子供の自己決定の場を大切に支える生徒指導を基盤とした、多様性を認めあえる学校であることを目指しています。

本校には、外国籍の児童生徒が9月現在で7カ国20名在籍しています。子供達は、それぞれに違いがあることを毎日の生活の中で当たり前と感じ、互いに理解を深めながら協働的に学ぶことのよさを感じています。

このような地域性もあり、子供達が広い視野で国際社会を生きるためのきっかけとなるよう、1年生から教科担任による英語あそびの時間や5年生以上の国際理解同好会の活動など、早い段階からの英語教育の素地や国際的な感覚・意識の育成を図っています。

また、総合的な学習の時間では、「大空市民学～大空から広がる未来」と題し、学年ごとの探究課題を設定し、環境教育、国際理解・キャリア教育、情報教育の分野を相互に関連付けながら学びを深めていますが、今年度は、校内研究主題を「互いの文化を尊重し、多様な世界で生きていく国際実践力の創造」とし、国際理解教育の視点を柱としながら、全教科を通して主体的・対話的で深い学びの充実にむけた授業改革に取り組んでいるところです。

このような中、本研究大会の会場校としての貴重な機会をいただけたことに、改めて深く感謝いたします。1人でも多くの皆様に、広大な十勝・帯広でのびのびと学びを楽しむ子供達の姿や、小中一貫教育の可能性に触れていただき、忌憚のないご意見、ご指導をいただければ幸いです。

大空学園義務教育学校は、今大会を糧としながら、今後もJICA北海道・帯広や帯広市観光交流課国際交流係とも連携し、教科横断的な学びの構築を進め、持続可能な社会を生き抜く子供達のグローバル・コンピテンシーの育成のため、児童生徒理解と授業改革に邁進していく所存です。

結びになりますが本研究大会の開催にあたり、深いご理解とご支援を賜りました北海道教育委員会、帯広市教育委員会の皆様をはじめとした多くの関係機関、ご尽力いただきました十勝国際理解教育研究会、全ての皆様に感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



ばんえい競馬

開催要項



十勝平野

開催要項

第33回 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会北海道ブロック大会

第44回 十勝地区国際理解教育研究大会

第2回 帯広市立大空学園義務教育学校公開研究会

第44回 北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会

大会主題 多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成
～世界と関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～

主催 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会
北海道国際理解教育研究協議会

主管 十勝地区国際理解教育研究会

後援 文部科学省 公益財団法人海外子女教育振興財団 北海道教育委員会
北海道小学校長会 北海道中学校長会 帯広市教育委員会
十勝管内教育委員会連絡協議会 十勝教育研修センター 十勝小・中校長会
帯広市校長会 公益財団法人日本教育公務員弘済会北海道支部
独立行政法人国際協力機構北海道国際センター (JICA 北海道・帯広)

1 期日 令和5年11月1日(水)～2日(木)

2 会場 帯広市立大空学園義務教育学校 森の交流館 JICA 北海道・帯広

3 協力校 帯広市立大空学園義務教育学校

4 日程

【1日目 11月1日(水) 会場：森の交流館】

13:00～13:30 受付

13:30～15:00 全道理事研修会・総会・研究担当者会議

15:15～16:00 JICA 北海道・帯広 見学

【2日目 11月2日(木) 会場：帯広市立大空学園義務教育学校】

9:00～ 受付

9:35～10:25 授業公開Ⅰ(3公開)

10:45～11:35 授業公開Ⅱ(4公開)

11:45～12:15 開会式

12:15～13:15 昼食・休憩(大空学園吹奏楽部レセプション)

13:15～13:35 全体会

13:40～15:00 授業別分科会

15:10～15:30 閉会式

5 開閉会式・全体会

【開会式 11月2日(木) 11:45～ 会場:メインアリーナ】

<進行>十勝・帯広大会事務局長 合田 真晃

- | | | | |
|---|-------|----------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 1 | 開式の言葉 | 十勝・帯広大会実行委員長 | 野中 利晃 |
| 2 | 挨拶 | 北海道国際理解教育研究協議会会長
全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会会長
帯広市立大空学園義務教育学校校長 | 小松 裕和
滝 多賀雄
村松 正仁 |
| 3 | 祝辞 | 北海道教育庁十勝教育局局長
帯広市教育委員会教育長 | 新山 知邦 様
広瀬 容孝 様 |
| 4 | 来賓紹介 | 十勝・帯広大会副実行委員長 | 稲葉 珠樹 |
| 5 | 閉式の言葉 | 十勝・帯広大会副実行委員長 | 笠松 真一郎 |
| 6 | 諸連絡 | 十勝・帯広大会事務局次長 | 岩崎 直希 |

【全体会 11月2日(木) 13:15～ 会場:メインアリーナ】

<進行>十勝・帯広大会事務局長 合田 真晃

- | | | | |
|---|------|-----------------------------------------|----------------|
| 1 | 基調提言 | 北海道国際理解教育研究協議会研究部長 | 関本 勝幸 |
| 2 | 研究発表 | 十勝地区国際理解教育研究会研究部長
帯広市立大空学園義務教育学校研究部長 | 益子 忠行
竹内 允人 |

【閉会式 11月2日(木) 15:10～ 会場:メインアリーナ】

<進行>十勝・帯広大会事務局長 合田 真晃

- | | | | |
|---|---------|-----------------|---------|
| 1 | 開会の言葉 | 十勝・帯広大会副実行委員長 | 牧 伊津子 |
| 2 | 挨拶 | 十勝・帯広大会実行委員長 | 野中 利晃 |
| 3 | 次期開催地挨拶 | 胆振地区国際理解教育研究会会長 | 高橋 慎治 様 |
| 4 | 閉式の言葉 | 十勝・帯広大会副実行委員長 | 小室 彰人 |

公開授業

公開Ⅰ（9：35～10：25）

公開Ⅱ（10：45～11：35）

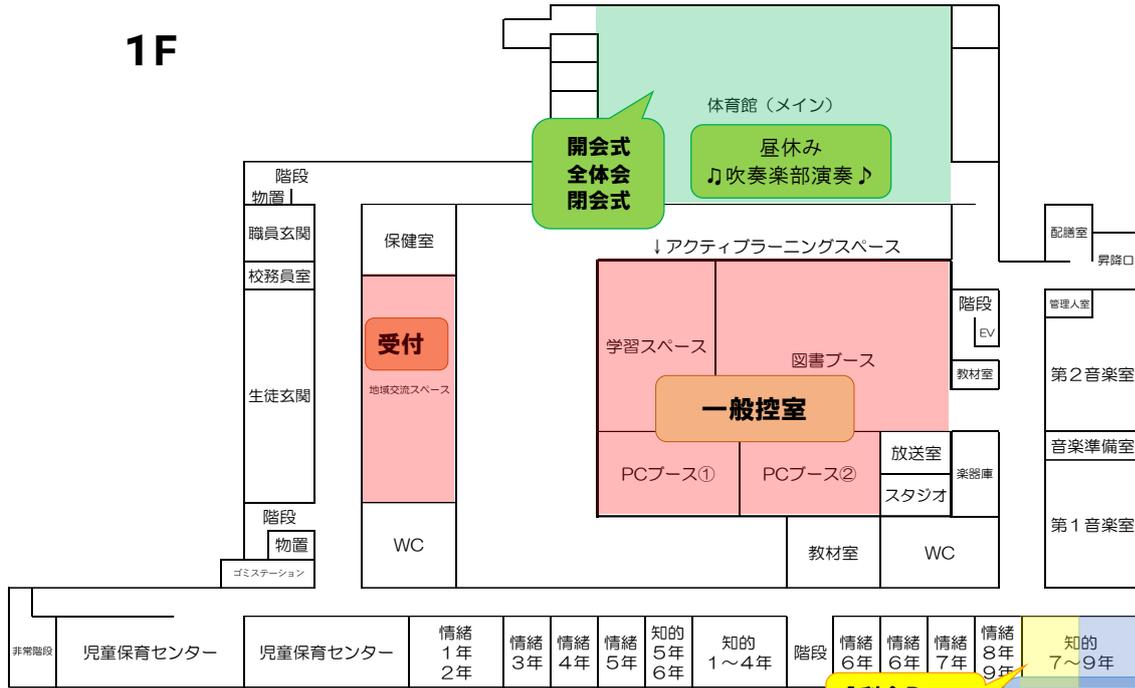
授業公開	授業者	教科 学年・学級	単元名
授業公開Ⅰ	松本 美佳 高島 瑠衣	生活科 1年生	むかしからのあそびを たのしもう 
授業公開Ⅰ	藤原 悠大	総合的な学習の時間 4年B組	世界のごみ問題を 考えよう ～日本と海洋ごみ～ 
授業公開Ⅱ	西村 弦 河瀬 結	総合的な学習の時間 5年生	やってみよう!SDGs 
授業公開Ⅱ	増田 美次郎	理科 7年B組 (中学1年)	光・音・力による現象 1章 光による現象 
授業公開 ⅠⅡ	上野 嗣弥 神下 朋実 尾崎 弥生	総合的な学習の時間(技/美/国) 8年生 (中学2年)	総合福祉デザイン ～発表会～ 
授業公開Ⅱ	福田 翔 筒井 美有	生活単元学習 7～9年Ⅰ組 (中学1～3年 知的学級)	【いただきます】から つながる世界 

授業別分科会（13：40～15：00）

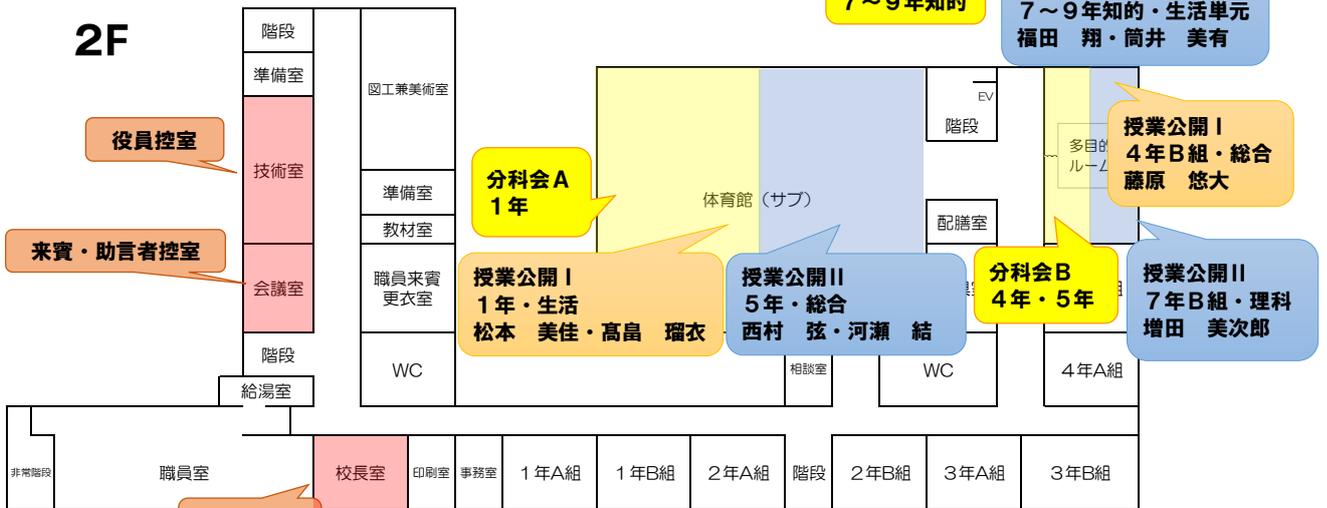
授業公開	助言者	司会者	記録者	運営者
分科会 A	1年 帯広市教育委員会 指導主事 田隈 泰邦	音更町立 鈴蘭小学校 大塚 智博	更別村立 上更別小学校 村上 加鈴	帯広市立大空学園 義務教育学校 津田 佳子
分科会 B	4年 北海道教育庁十勝教育局 主任指導主事 水野 宏美	音更町立 東土狩小学校 平井 久文	音更町立 木野東小学校 宮原 玲奈	帯広市立大空学園 義務教育学校 竹内 允人
	5年 北海道教育庁十勝教育局 指導主事 安田 英憲			
分科会 C	7年 (中学1年) 北海道教育庁十勝教育局 指導主事 國木 勇輔	幕別町立 札内東中学校 山崎 靖恵	帯広市立 帯広第八中学校 坂本 将人	帯広市立大空学園 義務教育学校 樋口 賢裕
	8年 (中学2年) 帯広市教育委員会 指導主事 松本 好史			
分科会 D	7～9年 (中学1～3年) 知的 北海道教育庁十勝教育局 指導主事 加藤 章芳	帯広市立 明星小学校 西保 雄介	帯広市立 豊成小学校 中山 麻衣	帯広市立大空学園 義務教育学校 西田 美里

大会会場図（帯広市立大空学園義務教育学校）

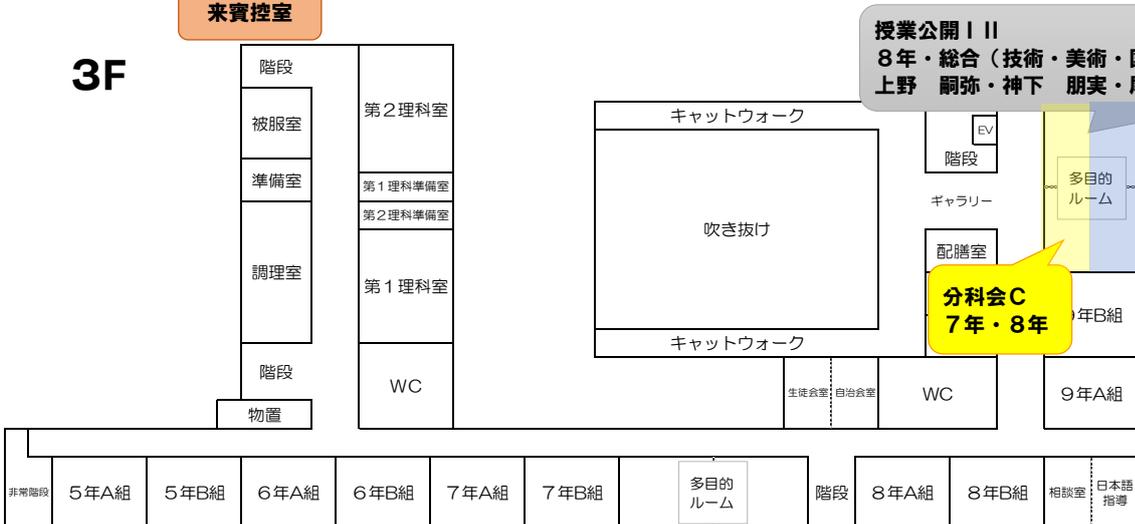
1F



2F



3F



基調報告



平原まつり

第44回十勝地区国際理解教育研究大会に係る研究の概要

十勝地区国際理解教育研究会 研究部

1 研究主題（3年次計画の3年目）

多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成
～世界と関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～

2 研究主題・副主題の設定について

○ 十勝国際理解教育研究会では

平成26年度より国際実践力の育成をテーマに研究を推進してきた。世界との関連性（教室と世界をつなげる）を重視し、グローバル社会を生き抜く行動力を身に付けた児童生徒の育成を目標に活動してきた。変化が激しく、前例のないできごとが起きる国際社会の中で、既成の知識だけでは対応できない状況を生き抜いていく資質の基礎基本を学校で身に付けさせ、習得した知識や技能、思いを生かし、生き抜く力(学びで得た成果 outcome)を高めるための研究を進めてきた。そこで得た多くの実践や研究成果は、わたしたちや北海道の宝となっている。そのような成果を踏まえ、さらなる高みをめざして十勝らしい研究を推進していくとともに、学習指導要領の趣旨を踏まえた、新たな視点を掲げる必要性がある。

これまで、国際理解ベーシックの作成や研究大会を中心として行ってきた授業研究を進める過程で、「自国を知り、世界とのつながりの中で、日本としてあるいは日本人としてどう考え、どう行動していくのか、考えさせる授業」の大切さが確認されてきた。そのためには、子供たちにとって刺激的な題材を通して、世界と関わることに楽しさを感じさせ、新たな価値を創造し、行動化につなげる国際実践力を身に付けることが大切と考える。

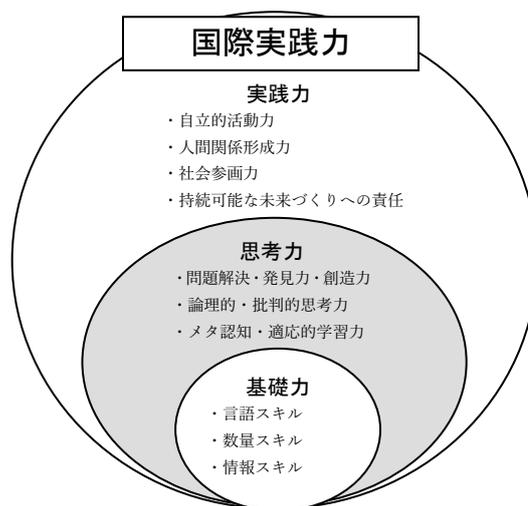
国際理解ベーシック

- ・ B A S I C 1 (地理的項目)「世界に触れる」
世界の各地域名や主要な国の位置、特徴等を身に付けることができる。
- ・ B A S I C 2 (文化・言語的項目－体験・経験)「世界を考える」
多くの日本と異なる世界の文化や価値観、言語を体感・実感することができる。
- ・ B A S I C 3 (情報発信・行動的項目－表現・意識)「自分と世界をつなぐ」
主体的に情報を収集したり、発信したり、地球市民として行動したりする素地、スキル、自覚を身に付けさせることができる。

○ 国際実践力の育成を目指して

『学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』には、「グローバル化が一層進む中で横断的・総合的な課題として国際理解に関する課題を扱い、探求的な学習を通して取り組んでいくことは意義のあることである（第2節『内容の取扱いについての配慮事項（8）』）」と記されている。

問題が複雑化・高度化し「決まった正解」がない社会では、課題を共有する人同士で試行錯誤しながら身に付けた知識や技能を活用・発揮しながら、納得解や最適解を創り上げながら、解決していくことが大切である。「世界に対して何を知っているか」だけではなく「世界に対して何ができるか」「他者と協働して、いかに問題解決できるか」を学びのゴールとし、世界と様々な形で関わる授業づくりを通して、国際実践力を育む研究とともに、「いつでも、どこでも、だれでもできる国際理解教育・世界との関わり」という原点に立ち返りつつ、新たな研究を推進する。



3 めざす子供の姿

- (1) 生活体験や知識をもとに、世界との関わりを感じ、何ができるかを考える児童生徒
- (2) 世界の中の日本及び日本人としての在り方を考え、対話等を通して主体的に課題を解決する児童生徒

4 研究仮説及び理由

(1) 仮説1

体験的な学習を設定することで、世界が抱える課題を「自分ごと」として考えることができる。

広く様々な国や地域を視野に入れ、外国の生活や文化を体験し慣れ親しむことや、衣食住といった日常生活の視点から、身近なものと遠い世界のこととのつながりを発見したり、世界との関わりを楽しんだりすることが重要である。世界が抱える課題を「自分ごと」として考え、文化の違いやその背景について調査したり追求したりするとともに、体験したことを議論したり発表したりするなど、世界に対して何ができるかを考える幅広い学習を展開することができる。

(2) 仮説2

問題解決的な学習を行うことで、新たな価値に気づき、主体的に行動しようとする意欲と能力を身に付けることができる。

日本と諸外国との関係について学ぶ際に、地球温暖化や食料輸出入の問題のように、価値が対立する問題に出会うことがある。そのような問題を積極的に生かして、世界中には多様な考え方や価値が存在することを実感できるような場面を設定する。

さらに対話を通して他者との違いや考えを吟味して統合し、それを解決する方法を考えたり、討論したりすることで、国際的に協調して取り組むことの重要さや難しさについて考える。同時に、他者と協力して、よりよい解や新たな価値を創造し、いかに問題を解決できるかを主体的に行動しようとする意欲及び能力を身に付ける学習を展開することができる。

5 教材づくりの視点

(1) カリキュラム・マネジメントについて【BASIC 1・2】

各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間、さらに小学校においては外国語活動との関連を図りながら、教科等横断的な視点で、教育課程に国際理解教育の学習内容を位置付けることが重要である。児童生徒に異文化を理解させながら世界の現実に触れる場の蓄積を図るとともに、実際の授業で、体験的な学習（活動）の場面を設定し、児童生徒が繰り返し自分と世界のつながりを意識する場面を多く設定する必要がある。

(2) 国際実践力の育成【BASIC 3】

国際実践力の中核に、一人一人が自ら学び判断し自分の考えを持って、他者と話し合い、考えを吟味してよりよい解や新しい知識を創り出し、さらに次の問いを見付ける力としての思考力がある。対話を通して他者との違いや考えを吟味して統合し、それを解決する方法を考えたり、討論したりする学習活動(output活動)で身に付けた思考力は、実生活における問題解決において、自らが置かれた回りの世界と様々に関わりながら、自己の信念や価値観を吟味し、具体的な行為を選択し、いかに行動すべきかを決定し問題を解決していくために主体的に活動(outcome活動)する国際実践力となる。

国際実践力の育成には、基礎力となる「世界に触れる(何を理解しているか、何ができるか)」「世界を考える(理解していること・できることをどう使うか)」「自分と世界をつなぐ(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)」という学習活動(intake活動)を基盤とし思考力の充実を図ることが重要である。

6 授業づくりの視点

児童・生徒の学ぶワクワク感、教科の学びが自分の設定した課題の解決に活きているという実感、自分の学びを自分で調整する力をどう育むのか、「好き」や「夢中」を手放さない学びを実現する。国際理解教育で育成する資質・能力は、世界とそこに住む人々、さらには、生物や環境、資源などを地球という一つの閉じられた生態系の中で捉え、大きな地球規模の歴史の流れの一つとして「今」を理解しようとする地球的な視野を持つことが大切である。そのうえで、国際的な課題やグローバルな課題に対して、「私には何ができるのか」という問いかけと行動をうながす、グローバル意識の醸成を図りながら進める必要がある。

(1) intake活動（「気づき」と「対話」のある学び）

児童生徒に異文化を理解させながら世界の現実に触れる蓄積を図るとともに、体験的な学習を通して、自分と世界のつながりを意識する活動

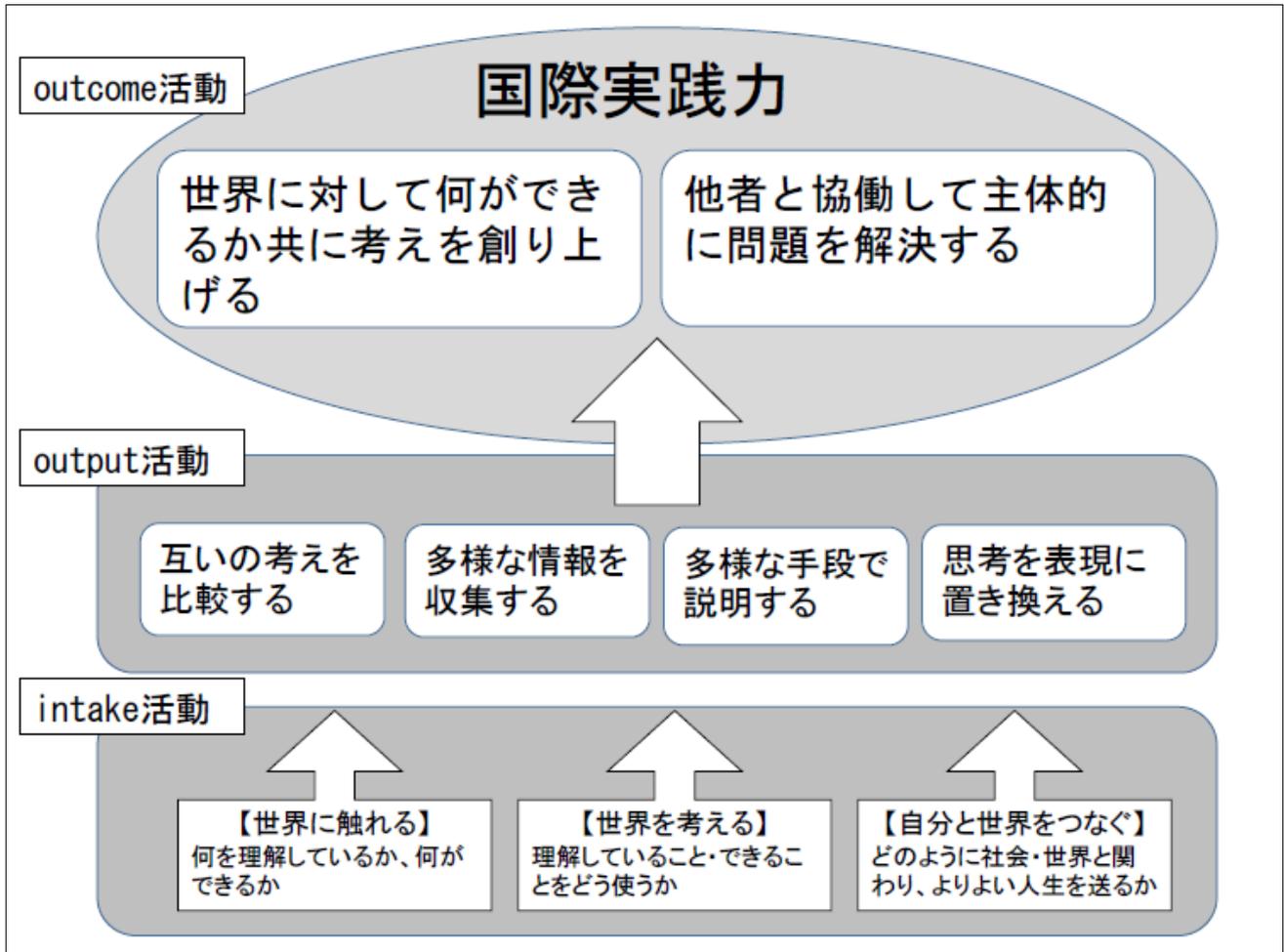
(2) output活動（協働的な学び）

対話を通して他者との違いや考えを吟味して統合し、課題を解決する方法を考えたり、討論したりする活動

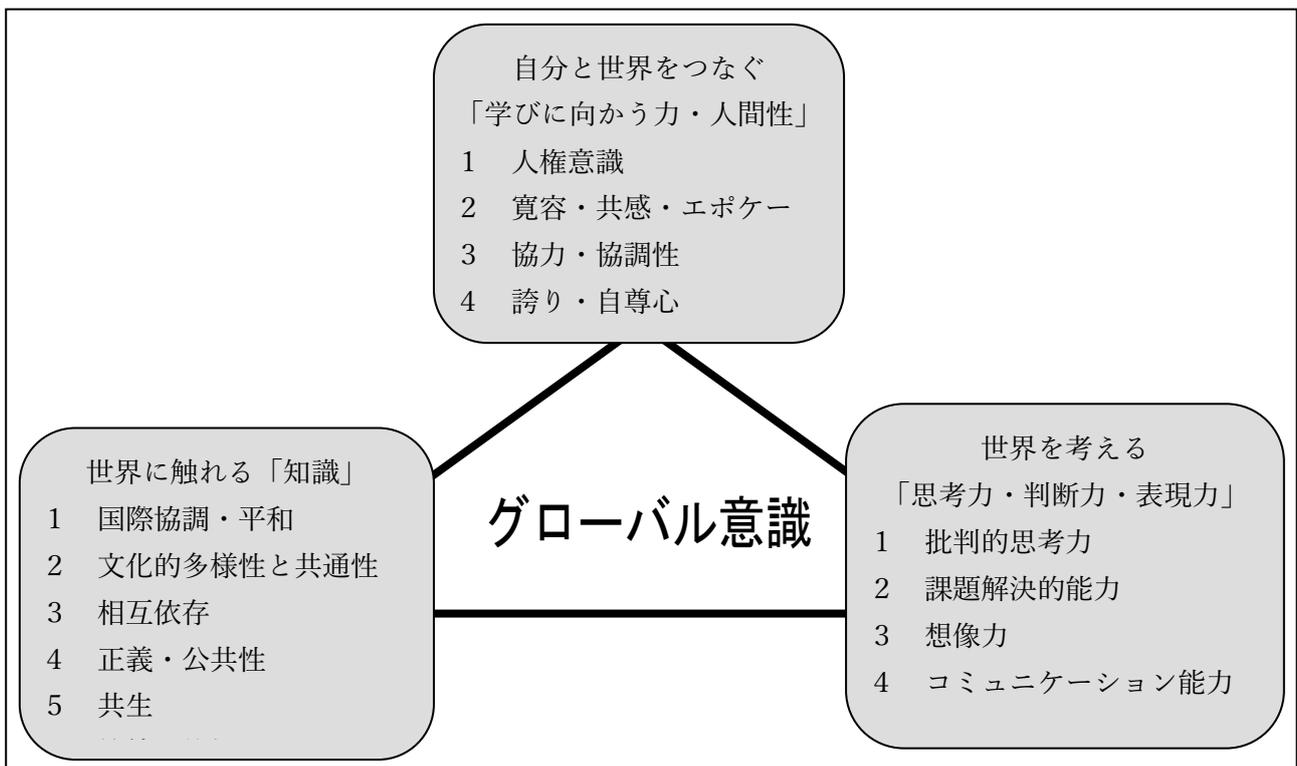
(3) outcome活動（主体的に行動する学び）

自己の信念や価値観を吟味し、具体的な行為を選択し、いかに行動すべきかを決定し課題を解決するための主体的な活動

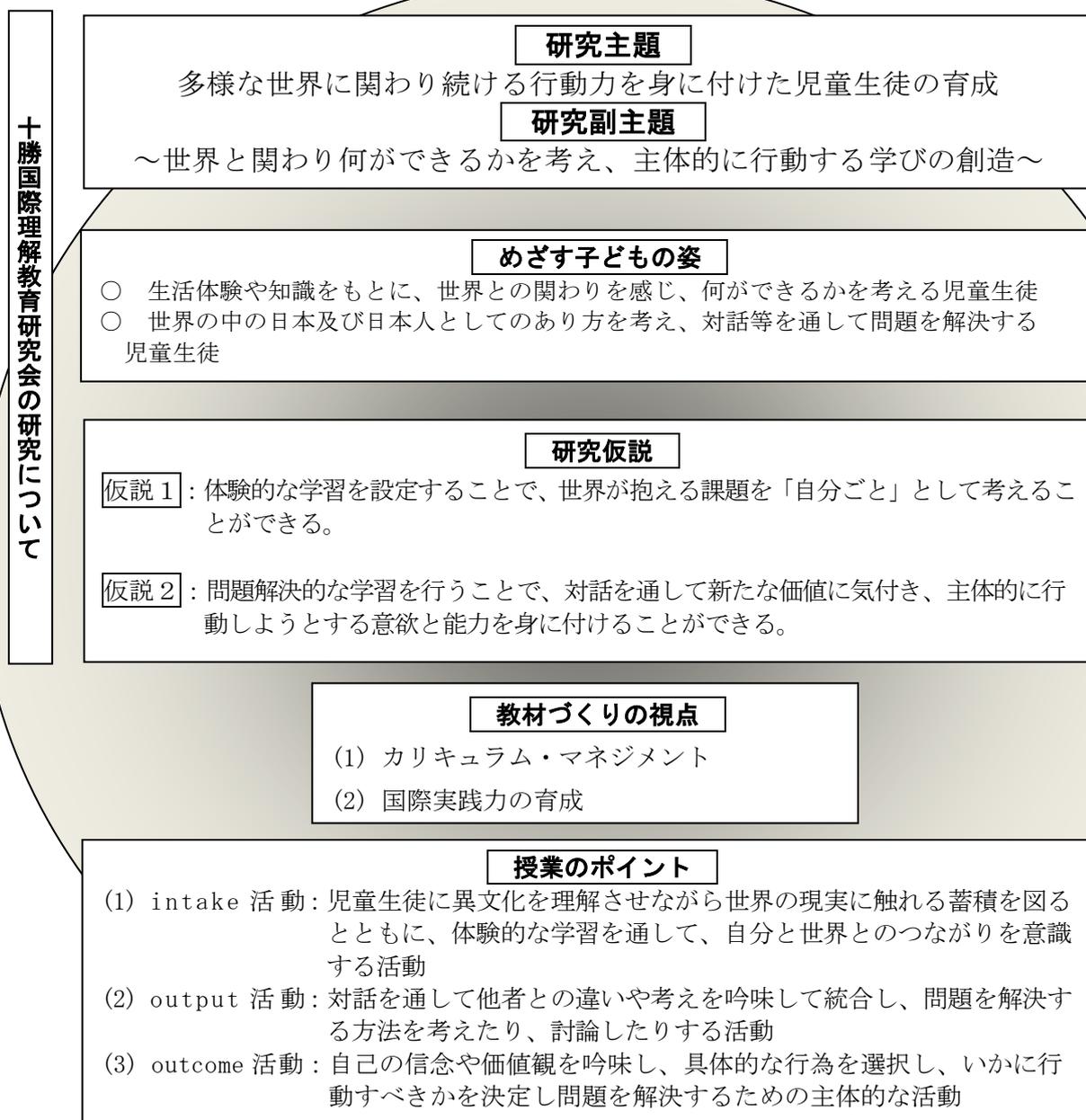
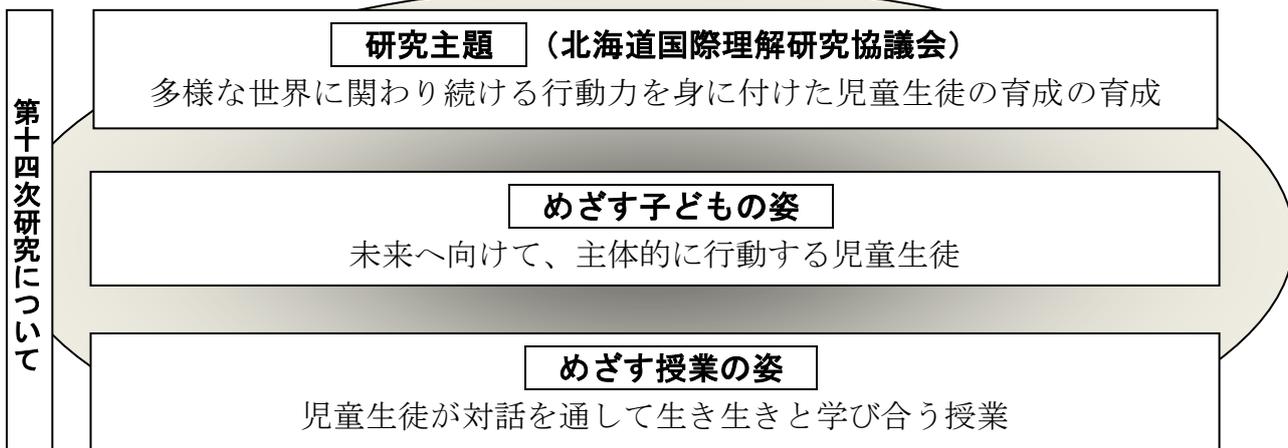
○ 国際実践力の育成について



○ 授業づくりの視点について



十勝地区国際理解教育研究会 研究の全体構造図



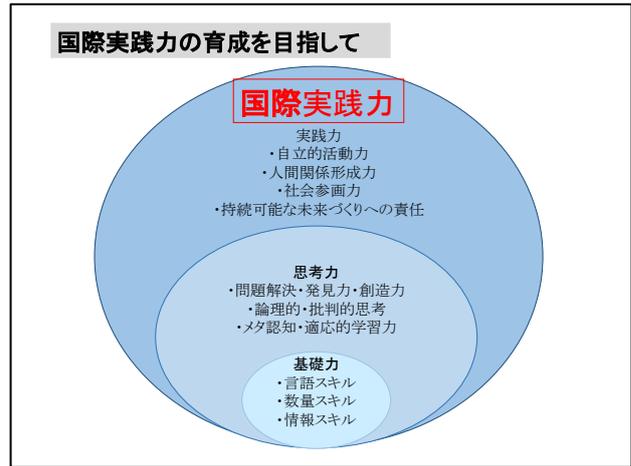
1

多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成

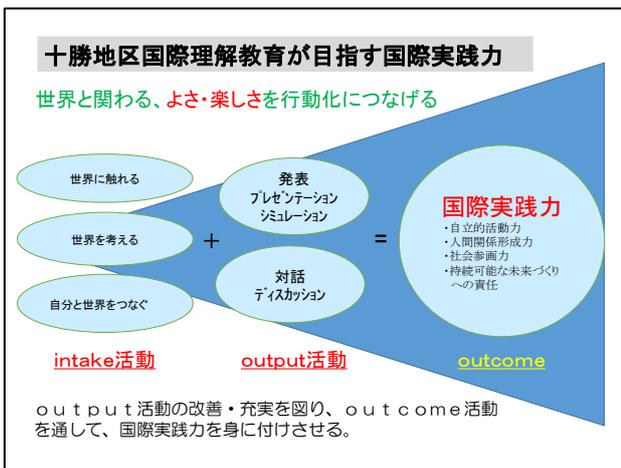
～世界と関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～

十勝地区国際理解教育研究会 研究部

2



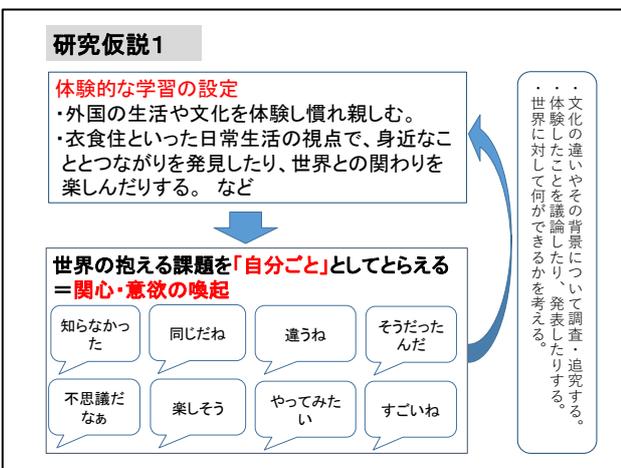
3



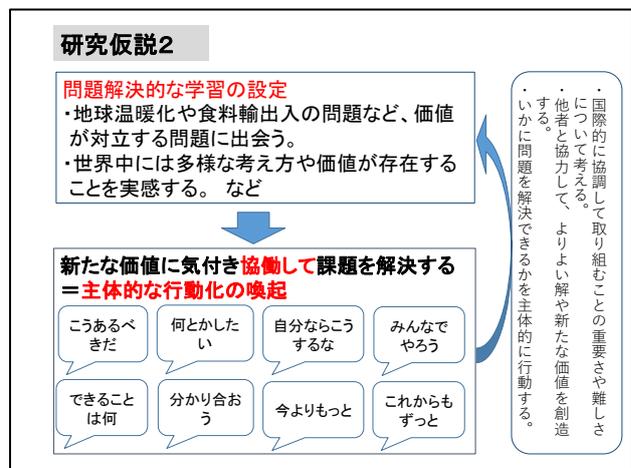
4

- 十勝地区国際理解教育が目指す子どもの姿**
- (1) 生活体験や知識をもとに、世界との関わりを感じ、何ができるかを考える児童生徒
 - (2) 世界の中の日本及び日本人としての在り方を考え、対話等を通して主体的に課題を解決する児童生徒

5



6



十勝地区国際理解教育の授業のポイント

(1) intake活動

児童生徒に異文化を理解させながら世界の現実に触れる蓄積を図るとともに、**体験的な学習を通して**、自分と**世界のつながりを意識する活動**

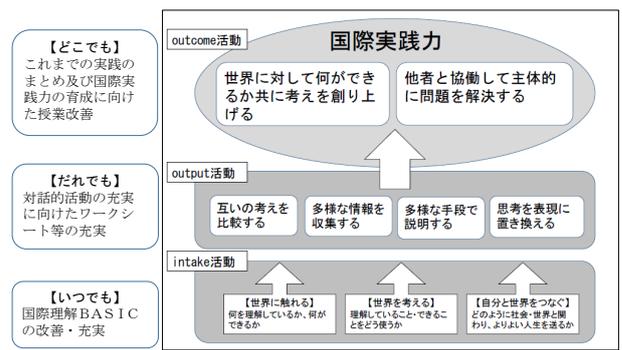
(2) output活動

対話を通して他者との違いや考えを吟味して統合し、課題を解決する方法を考えたり、討論したりする活動

(3) outcome活動

自己の信念や価値観を吟味し、**具体的な行動を選択し**、**いかに行動すべきかを決定し課題を解決するための主体的な行動**

十勝地区国際理解教育の活動の見通し



主題設定

本校は、令和4年度に大空小学校と大空中学校が統合され義務教育学校として新たに開校した小中一貫校である。開校初年度は、研究主題を「自ら学びをデザインし、挑戦を続ける子どもの育成～義務教育9年間を見通した大空モデルの創造～」として、学習過程のモデル化、板書とノートの一体化、振り返り活動の充実を図り、児童生徒の発達段階や各教科の特性を踏まえながら授業実践を重ねてきた。公開研究会を含めた授業研究を中心とし、「大空モデル」を職員全体で共有することで、一定の成果を得ることができた。開校1年、大空学園の特色をより生かす上で新たな課題が見えたため、令和5年度から新しい研究に取り組むこととした。

帯広市南西部に位置する大空町は、近隣に帯広畜産大学や国際協力機構「JICA 北海道（帯広）」があることもあり、外国人研究員の出入りが盛んな地区の一つである。それゆえ、本校では多くの外国籍学園生の受け入れを行ってきた。現在、20名の外国籍学園生が在籍しており、日本語指導担当教諭を2名配置して本校独自の日本語指導プログラムを構築している。学園生にとって、外国籍学園生と学校生活を送ることはすでに当たり前前の環境であり、大きな疑問や困り感なく教育活動を進めている。一方で、学級に在籍する外国籍の友達に興味や関心をもち積極的に関わろうとする態度を見ることは多くない。大空学園の特色といえる国際色豊かな大空学園をより生かすため、「国際理解教育」を主とした研究に踏み出すこととした。



Study of Ozora
2023

大空学園が考える“国際実践力”

- ◆ 異なる文化に興味や関心を示し、知ろうとすることができる。
- ◆ 自分と“違う”ことを受け入れたり、認めたりすることができる。
- ◆ 異文化に触れることを通して、自分の考えや自国の文化、習慣の良さに気づくことができる。
- ◆ 将来、国際社会と主体的にかかわるために、行動することができる。

副題に込めた思い

【かわる】

異文化に触れる段階。自国の文化、習慣、自分の常識と対象とを比較し、課題を見つける。

【つながる】

異文化を理解する段階。文化の多様性を認めると共に、自国の文化を大切にす。

【ひろげる】

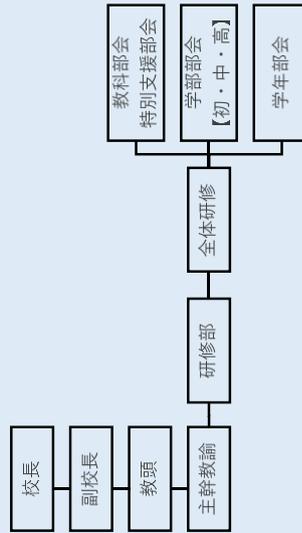
異文化を尊重する段階。「今、自分にできることは何か」を考え、主体的に国際社会に参加する態度を育てる。

研究主題

互いの文化を尊重し、多様な世界で生きていく国際実践力の創造

～かわり、つながり、ひろげる～

研究体制



大空学園の特色を生かす“+α”の研究

- A) 道徳教育の推進
- ・ 道徳科教材の開発と授業実践
 - ・ 道徳科の授業交流
 - ・ 道徳科での学園生の学びの様子の交流
- B) 教科指導・学級経営の交流
- ・ 教職員の専門性を生かしたミニ研修
 - ・ 各教科の授業づくり交流
 - ・ 学級経営のポイント交流（小中の垣根を越えて）
 - ・ 若手教諭の悩み相談室

目指す子ども像

- ① 自国の文化を大切にすると共に、異文化を認めることができる学園生
- ② 異文化や多様性を尊重し、主体的に行動しようとすることができる学園生

研究仮説

- ① 自国の文化と自国と異なる文化を比較することによって、異文化を認めたり自分の文化の価値に気づいたりしてできるだろう。
- ② 「自分にできること」を考える場面を意図的に設定することによって、主体的に国際社会に参加しようとする態度をもつことができるだろう。

年次計画（2年次計画）

1st stage（1年目）	2nd stage（2年目）
<ul style="list-style-type: none"> ● 研究計画 ● 検証計画 ● 授業実践 ● 全道国際理解研の開催 ● 研究成果の検証・整理 ● 1st stage のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 推進計画の見直し ● 研究仮説の修正 ● 授業実践 ● 研究成果の検証・整理 ● 研究全体のまとめ ● next stage の方向性の確認

大空学園義務教育学校

研究概要

1

令和5年度
第2回 帯広市立大空学園義務教育学校 公開研究会

研究概要説明資料

令和5年11月2日(木)

2

CONTENTS

- 1 大空学園とは
- 2 大空学園の研修
- 3 公開授業について

3

1
大空学園とは

4

令和4年度 帯広市立大空学園義務教育学校 開校

大空小中学校運営協議会

大空小学校
大空小PTA
大空小教員

+

大空中学校
大空中PTA
大空中教員

↓

大空学園運営協議会

1つの教員集団
1つのPTA
1つの学校 大空学園

5

大空学園の学校教育目標

【教育理念】
《自主》主体的に深く考える
《友愛》認め合い高め合う
《創造》挑戦し自ら歩む

【学校教育目標】
学校・家庭・地域で学び育み
夢をもって挑戦し続ける子供を育成する

6

大空学園の目指す子ども像

【初等部（1～4年生）】
● 優しさを持って他者と協力しながら、目標に向かって意欲的に取り組む子

【中等部（5～7年生）】
● 自分のよさに気づき、他者を認め思いやり、目標に向けて行動・協働する子

【高等部（8～9年生）】
● 自他の個性を尊重し、地域と関わり、将来の目標や夢の実現に向け行動する子

7

大空学園の学校組織

校長 ↔ 学校運営協議会(10名)

副校長

専務主任 教頭 教頭 専務主任

主任教諭 主任教諭

保健体育部長 教務部長 研修部長 生徒指導部長

初等部 部長 中等部 部長 高等部 部長

1年 2年 3年 4年 5年 6年 7年 8年 9年

学級担任 学級副担任 学級担任 学級副担任 教科担任(主任) 進路指導主任

特別支援担任 特別支援コーディネーター 特別支援補助員 総合支援員 校務員 事務補

8

教育課程の全体像

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
教育課程の区分	前期課程 (小学校学習指導要領)					後期課程 (中学校学習指導要領)			
	初等部 ～基礎期(守)～					中等部 ～充実期(破)～		高等部 ～発展期(離)～	
指導形態	学級担任制 (一部教科担任制)					全教科担任制			
特色ある教育課程	生活科		おおぞら市民学(おびひろ市民学地域版)						
	英語の遊び時間 (担任・ALT)		外国語活動 一部教科担任		英語科 (教科担任・ALT)				
テスト等形態	単元テスト (従来のテスト)					定期テスト(中間・期末) TOEFL Primary実施(5～9年生)			
PTA活動	小・中PTA一本化								
主な学校行事	入学式(1年生)、卒業式(9年生)、夢の式(4年生)、立志式(6年生) 体育フェスティバル、文化フェスティバル、修学旅行(6・9年生)								
部活動・少年団活動	少年団					部活動			
	校時					45分授業			
制服・指定ジャージ	なし					指定制服・ジャージ			

9



10



11

令和5年度 研究主題

互いの文化を尊重し、
多様な世界で生きていく国際実践力の創造
～かかわり、つながり、ひろげる～

12

大空学園が考える“国際実践力”

- ◆異なる文化に興味や関心を示し、知ろうとすることができる。
- ◆自分と“違う”ことを受け入れたり、認めたりすることができる。
- ◆異文化に触れることを通して、自分の考えや自国の文化、習慣の良さに気づくことができる。
- ◆将来、国際社会と主体的にかかわるために、行動することができる。

多様な世界で生きていく国際実践力の創造
～かかわり、つながり、ひろげる～

13

【かかわる】
異文化に触れる段階。自国の文化、習慣、自分の常識と対象とを比較し、課題を見つける。

【つながる】
異文化を理解する段階。文化の多様性を認めると共に、自国の文化を大切にする。

【ひろげる】
異文化を尊重する段階。「今、自分にできることは何か」を考え、主体的に国際社会に参加する態度を育てる。

～かかわり、つながり、ひろげる～

14

目指す子ども像

- ① 自国の文化を大切にすると共に、異文化を認めることができる学園生
- ② 異文化や多様性を尊重し、主体的に行動しようとする事ができる学園生

15

研究仮説

- ① 自国の文化と他国の文化を比較することによって、異文化を認めたり自国の文化の価値に気づいたりできるだろう。
- ② 「自分にできること」を考える場面を意図的に設定することによって、主体的に国際社会に参加しようとする態度をもつことができるだろう。

16

研究仮説

- ① 自国の文化と他国の文化を比較することによって、異文化を認めたり自国の文化の価値に気づいたりできるだろう。

十勝地区国際理解教育研究会の研究との関わり

【仮説1】
体験的な学習を設定することで、世界が抱える課題を「自分ごと」として考えることができる。

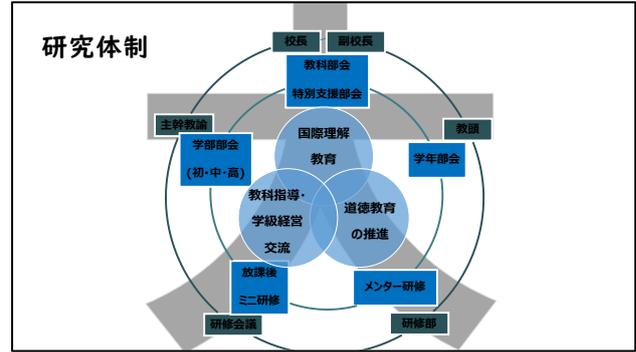
17

十勝地区国際理解教育研究会の研究との関わり

【仮説2】
 問題解決的な学習を行うことで、新たな価値に気づき、**主体的に行動しようとする意欲**と能力を身に付けることができる。

② 「自分にできること」を考える場面を意図的に設定することによって、**主体的に国際社会に参加しようとする態度**をもつことができるだろう。

18



19

3
 公開授業について

20

公開授業

分科会	学年・学級	授業者	教科	内容
分科会A	1年生	松本 美佳 高島 瑠衣	生活	昔からの遊びを楽しもう
分科会B	4年B組	藤原 悠大	総合	世界のごみ問題を考えよう
	5年生	西村 弦 河瀬 結	総合	大空学園SDGs はじめの一步
分科会C	7年B組	増田 美次郎	理科	光による現象
	8年生	上野 嗣弥 神下 朋実 尾崎 弥生	総合 (技術・美術・国語)	総合福祉デザイン ～自助具を製作しよう～
分科会D	後期課程知的 (7～9年)	福田 翔 筒井 美有	生活単元	「いただきます」からつながる世界

21

本日の分科会では…

<p>分科会A (1年)</p> <p>日本と外国の遊びの遊び方やコツを比較する場面</p>	<p>分科会B (4・5年)</p> <p>【4年】 ごみ問題に対して、身の回りのできることを考える場面</p> <p>【5年】 各グループの取組状況を報告、協議する場面</p>
<p>分科会C (7・8年)</p> <p>【7年】 虹の原理は同じでも、国ごとに見える色に違いがある理由を考える場面</p> <p>【8年】 ユニバーサルデザインの考えを取り入れたデザインや自助具の機能の工夫について(発表内容)</p>	<p>分科会D (後期課程知的)</p> <p>日本とスリランカの習慣や生活を比較する場面</p>

公開授業指導案



観光馬車

第1学年 生活科 学習指導案

日 時 令和5年11月2日(木) 第2校時
児 童 1年A組 25名・1年B組 25名
指導者 T1:松本 美佳 T2:高島 瑠衣

1 単元名 むかしからのあそびをたのしもう

2 単元について

本単元は、小学校学指導要領生活科編に示されている内容「(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝えあう活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることよきや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合いを交流しようとする。」を中核に据えて設定した単元である。

本学年の学園生には、4名の外国籍の児童がいる。しかし、互いに入学した時から一緒に友達という認識のみで、国や文化には全く関心がないのが現状である。そこで、日本の伝承遊びを学習していく中で、遊びは日本だけのものではなく、世界にも遊びがあることに気付かせ、そこから世界に目を向けていく素地としたい。

本学年の学園生は、学校では鬼遊びなど集団遊びを好んでしているが、帰宅後はゲーム機を使用したりSNS投稿動画を視聴したりするなどを好んでいる。

伝承遊びを取り上げることで、素朴な楽しさに触れさせ、ゲーム機以外にもいろいろな遊びがあることに気付かせながら、自らの遊び場を広げていこうとする力をつけさせたい。また、伝承遊びは、習得するには得意な人に教えてもらい、コツをつかむことが必要になる。そこで、伝承遊びを通して、身近な人々や友達とのコミュニケーションを深めていったり、地域のお年寄りやJICA(独立行政法人国際協力機構)や帯広市国際協力派遣員の方に来ていただき遊びを教えてもらったりすることにより、いろいろな人と関わることの楽しさや自国の文化と他国の文化の相違点を感じさせ、自分も相手も大切にしようとする思いを育んでいくことができると考える。

3 国際理解の目標

- BASIC-1 (地理的項目—知識・理解) ⇒ 【intake活動】
世界の遊びを体験し、いろいろな遊びがあることを知る。日本の昔遊びと違うところがあることに気付く。
- BASIC-2 (文化・言語的項目—体験・経験) ⇒ 【output活動】
見つけた相違点を交流する。似ている遊びがあることや、遊び方は違うが遊ぶ人数や使う道具が似ているなどの相違点を学ぶ。
- BASIC-3 (項目—情報発信・行動的体験・経験) ⇒ 【outcome活動】
自国の文化と他国の文化の相違点を感じながら受け入れ、認めようとする事ができる。

4 単元の目標

地域のお年寄りや外国の方から昔の遊びを教えてもらい、交流や自分なりに工夫した遊びを通して、日本と外国の違いを見つけることができる。

5 大空学園の研究に関わって

①自国の文化を大切にすると共に、異文化を認めることができる学園生

日本の遊びと外国の遊びを比較することにより、異文化を認めたり、自分の文化のよさに気付いたりすることができるよう取り組んでいきたい。

②異文化や多様性を尊重し、主体的に行動しようとする事ができる学園生

日本の遊びだけではなく、外国の遊びを体験することにより、異なる文化に興味を示し、さらに知ろうとする意欲につなげられるよう取り組んでいきたい。

6 指導計画

学習段階	授業の展開	評価の手立てと観点 □評価 ◆手立て
1次（4時間） （自国を知る）	昔遊びで知っていることを交流する。	□発表・交流・振り返り
	自分たちだけで遊んでみる。	□行動・交流・ワークシート・振り返り ◆学習段階に応じたワークシートを用意する。
	どうしたら上手に遊べるかを話し合う。	□発表・交流・ワークシート・振り返り
	日本の遊びを地域の人に教えてもらう。	□行動・交流・ワークシート・振り返り
2次（2時間） （他国を知る） 【本時】	遊び方には「コツ」があることに気付き、昔遊びが他の国にもあるのではないかとということから次時に繋げる。	□発表・交流・ワークシート・振り返り
	外国の遊びを体験し、初めて知った遊びにも日本の遊びと同じように遊び方に「コツ」があることに気付く。【intake活動・output活動】	□行動・発表・交流・ワークシート・振り返り
3次（3時間） （まとめ）	前時までに学んだことからわかったことや、もっと知りたいこと、感想を次時の発表会に向けてまとめる。【output活動】	□発表・ワークシート・振り返り
	この単元で学んだことを発表する。【outcome活動】	□発表・ワークシート・振り返り

7 本時の目標

- 外国の方から昔の遊びを教えてもらい、交流や自分なりに工夫した遊びを通して、日本と外国の違いを見つけることができる。
- 世界の遊びを体験し、いろいろな遊びがあることを知る。日本の昔遊びと違うところがあることに気付く。
- 見つけた相違点を交流する。似ている遊びがあることや、遊び方は違うが遊ぶ人数や使う道具が似ているなどの相違点を知る。

8 本時の展開

主な学習活動		□評価◆留意点	●国際理解の活動
T1	T2		
<p>○はじめのあいさつ</p> <p>○前時の振りかえりとして、日本の遊びには「コツ」があったことを再確認し、本時では外国の遊びを体験することを確認する。</p> <p>○日本じゃない国の遊びをしたことがあるかな？</p> <p>○どんな国を知っているかな？</p> <p>○違うところはあると思う？</p> <p>○同じところはあると思う？</p> <p>○外国の方々を紹介し、持ってきていただいた遊びを見せる。（やっているところはまだ見せない。形や色などの特徴を子どもたちに伝える。）</p> <p>「どうやってあそぶのかな？」</p> <p>「日本のあのあそびに似ている！でも、あそびかたは同じなのかな？」</p> <p>○外国の方々に遊びを見せてもらう。</p> <p>「私たちも上手にできるかな？」</p> <p>「どうやったらできるのだろう・・・？」</p> <p>○日本の遊びには「コツ」があったことを確認する。</p> <p>「外国のあそびにもコツがあるのかもしれない・・・」</p>	<p>○前時の振り返りについてのT1の問い掛けについて子どもたちが考えるのを支援する。</p> <p>○子どもたちが見えやすいように外国の方々の遊びを見せる。</p> <p>○日本の遊びのコツを提示する</p>	<p>◆自国と他国の遊びについて考えることを通して、他国への関心を高める。</p>	<p>●外国にも昔から遊ばれている遊びがあることを知る。 【intake活動】</p> <p>●外国の遊びの遊びかたを知り、実際に体験する。 【intake活動】</p>
<p>【課題】 にほんのあそびとがいこくのあそびをくらべてみよう！</p>			
<p>○コツ集めスタンプラリーについての説明をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>コツ集めスタンプラリー</p> <p>①外国の遊びのブースに行き、外国の方から遊び方やコツを聞く。</p> <p>②ワークシートにコツの付箋を貼る。スタンプを押してもらったら次のあそびへ進む。</p> <p>③すべての遊びのスタンプを集めたら、自分の席へ戻る。</p> </div>	<p>○外国の方にコツを聞くときの子どもたちを支援する。</p>	<p>□遊んでみて、わからないことや難しいことを意欲的に質問している。</p> <p>□外国の方と触れ合いながら遊びを教えてもらっている。</p>	<p>●外国の遊びのコツを全体で共有し、日本の遊びとの共</p>

<p>○友達の発表を聞いて、子どもたちがコツに気付くことができるように支援する。</p>	<p>○どんなコツがあったかを共有し、日本の遊びと同じところや違うところを全体で見つける。 「○○は同じだけど、△△は違うんだね！」 「使う道具は似ていたけどコツや遊び方は違った！」 ○1年B組のグマ ハナコキさんのお母さんから、ケニアの文化や遊びについてお話を聞く。 「違うところと同じところがあったね！」</p>	<p>◆安全面に配慮する。 ◆各ブースを周り、進捗状況を見て、声掛けをする。</p> <p>□コツのカードを使って、日本と外国の遊びの共通点や相違点を考えることができる。</p> <p>□友達の発表を聞いて、コツに気づくことができる。</p>	<p>通点や相違点を考える。 【output活動】</p>
<p>【まとめ】にほんのあそびとがいこくにあそびには、にているところもあるが、ちがうところもある。</p>			
	<p>○振り返り</p> <p>○次時で、本時で分かったことや、もっと知りたいことをまとめることを伝える。</p>	<p>□学習を振り返り、気づいたことを発表している。</p> <p>□進んで発表したり、友達の発表を最後まで聞いたりしている。</p> <p>◆次時の学習の見通しをもてるようにする。</p>	<p>●遊びに共通点や相違点があったように、日本と外国の文化にも共通点や相違点があることを知る。 【intake活動】</p>

第4学年 総合的な学習の時間（国際理解） 学習指導案

日 時 令和5年11月2日（木）第2校時
児 童 4年B組 30名
指導者 藤原 悠大

1 単元名 世界のごみ問題を考えよう

2 単元について

不法投棄による環境汚染や、ごみ処理場の新增設に対する近隣住民の反対、焼却・埋め立てが追いつかない問題の総称を指す「ごみ問題」は現在、世界中で深刻化しており、日本でも問題視されている。ごみ問題によって生じる主な影響は、廃棄物処理に伴う温室効果ガスの排出や埋め立て地の不足、海洋プラスチック問題がある。日本の現状としては、国民一人につき1日に1キロのごみを排出していると言われている。また、国際廃棄物指標においての日本の総評は、ごみの量が他国と比べて少なく、適切に焼却処理を行えているが、リサイクル率が低いとされている。

本単元では、世界で起きているごみ問題を調べたり、日本で出たごみが世界の様々な場所に流れ着いていることを知ったりする中で、身近に出しているごみについて改めて考える機会としたい。そして、SDGs等の取り組みの中でこれからの将来を担っていく世代の子どもたちに、これからできることは何かを考えようとする態度を育てたい。

3 国際理解の目標

- BASIC-1（地理的項目－知識・理解）⇒【intake 活動】
日本から出たごみが、世界各地に多く運ばれていることを知り、現状の問題点について知る。
- BASIC-2（文化・言語的項目－体験・経験）⇒【output 活動】
日本や世界のごみ問題を調べた知識を活用し、身の回りのできることや様々な取組の共通点や相違点について考える。
- BASIC-3（情報発信・行動的項目－表現・意識）⇒【outcome 活動】
世界の様々な取組を知ることで、将来への意思決定や行動に活かすようにする。

4 単元の目標

学習したことや調べたことを活用しながら、世界と日本が抱えるごみ問題についての理解を深め、身近な生活で出来ることを考える態度を育てる。

5 大空学園の研究にかかわって

研究仮説との関わりとしては、外国のごみ問題やそれに対する取組を日本と比較することで、外国のごみ問題についての理解を深め、自国の取組へと生かしていきたい。また、自分自身や家庭、学校でできることを考える機会を設けることによって、より主体的に問題に取り組む態度を育てていきたい。

6 指導計画

学習段階	授業の展開	評価の手立てと観点 □評価 ◆手立て
1次（1時間）	社会科のごみの学習と結び付けて、世界や日本のごみ問題の現状を知る。	□ふり返り
2次（3時間）	世界や日本のごみ問題について調べる。	◆インターネットや本などの資料を使って調べる。
3次（1時間） 【本時】	調べたことから、身の回りで出来ることを考える。	□発表・交流 □ワークシート
4次（2時間）	学習したことをもとに、新聞にまとめる。	□発表

7 本時の目標

- 世界や日本のごみ問題について調べたことを活用し、身の回りで出来ることを考える。

8 本時の展開

主な学習活動	□評価 ◆留意点	●国際理解の活動
<p>○単元の学習の流れを確認する。</p> <p>○前時までの調べ学習で、わかったことや気付いたことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界ではごみによって様々な問題が引き起こされている。 ・自分たちの家から出るごみには、処分のしづらい物がある。 	<p>◆外国と日本の現状を比較することで、外国への関心を高める。</p> <p>◆外国や日本が抱えるごみ問題は関係ないのではなく、自分たちの身近な取組から変えられることを理解する。</p>	<p>●日本が出しているごみが世界の国々の中で多いことを知り、現状の問題点について知る。</p> <p>【intake 活動】</p>
<p>【課題】 調べたことをもとに、身の回りでできることを考えよう。</p>		
<p>○調べ学習で詳しく調べていたことをもとにグループをつくり、身近に出来ることについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むだな買い物はしない。 ・プラスチック製品の代わりになるものを使う。 ・リサイクルしやすいものを使う。 	<p>◆大きな問題に対して自分たちにできることがあることに気付かせる。</p>	<p>●調べ学習をもとに、身の回りで出来ることについて考える。</p> <p>【output 活動】</p>

<p>○交流を通して、他グループのアイデアから取り入れ、自分のグループのアイデアを深める。</p> <p>○グループで考えたことを発表する。</p> <p>○世界ではごみ問題に対して、どのような取組をしているのかを、資料を通して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えた取組に似ている部分があった。 ・この取組ならこの問題を解決することができる。 	<p>◆交流を通して、自分の考えの幅を広くもてるようにする。</p> <p>□他グループの良いと思った考えを取り入れるだけでなく、なぜそう思ったのかを記録する。</p> <p>◆発表されたことをグルーピングすることで、他グループとの共通点や相違点に気付くようにする。</p>	<p>●世界の様々な取組を知ることによって、将来への意思決定や行動に活かすようにする。</p> <p>【outcome 活動】</p>
<p>【まとめ】 自分たちの行動は、世界の問題解決につながっている。</p>		
<p>○本時のふり返しを行う。</p>		

第5学年 国語科・総合的な学習の時間（国際理解） 学習指導案

日 時 令和5年11月2日（木）第3校時
児 童 5年A組 26名・5年B組 26名
指導者 西村 弦・河瀬 結

1 単元名 大空学園SDGs はじめの一步

2 単元について

本単元は、日本におけるSDGsの達成度に目を向け、課題となっている項目の達成度を高めるための手立てを考え、学園・地域・家庭で実際に提案・実践を進めていく。また国語科と総合的な学習の時間で教科横断的に自分の学園をより良くする取組を通して、持続可能な世界をつくる行動者としての第一歩を踏み出す姿を目指す。

本学年は学年全体として落ち着いた学園生活を送っており、学習に対しての意欲も高い。またエジプト国籍の学園生が2名在籍しており、日常的に世界の文化や言語に触れられる環境で過ごしている。第4学年の総合的な学習の時間にSDGsの概要について調べ、新聞にまとめる活動をしており、本単元を学ぶ環境は非常に恵まれている。

一方で、自己調整力に課題があり、自分で課題を見つけたり調べたりする活動に戸惑いを感じる学園生が多い。例えば、国語科の定期テストの振り返りアンケートでは、「勉強はしているが、結果につながっていない」と感じる学園生が半数以上にのぼっている。つまり意欲はあるが、学び方がわからなかったりメタ認知できなかったりという課題に直面しており、この傾向が進級に比例して強くなることを危惧している。

本学園では、第5学年より教科担任制を導入しており、4月からの半年間でもそのメリットは学園生も指導者も十分に実感している。まず、複数の指導者が学園生に関わることによる安心感の高まりが挙げられる。そして指導者が担当教科の教材研究に専念し、より質の高い教科指導に必要な授業準備ができる。さらに、同内容を複数回指導することで、授業に対する学園生のさまざまな反応や理解度を把握しながら、次の授業に向けて改善を重ね、さらに質の高い授業につなげることも可能である。

一方、教科担任制になると、他教科の進捗状況や学園生の様子を把握しにくく、教科等横断的な学びの積み重ねが難しい。本単元では、これらのメリットとデメリットを再認識し、国語科と総合的な学習の時間との連携を取りながら、教科等横断的な学びを通して、学び方を身につけ、実践的な活動に取り組み、自己調整力の向上を目指していく。

これらを達成するために、本単元では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を目指していく。「個別最適な学び」を進めるには、学び方の習得と自分の考えをもつことが重要である。課題選択の場面を設定し、一人ひとりの興味関心にあった課題だったとしても、どのように取り組めばよいかわからなければ、学習意欲が減退してしまう。課題だけではなく、「最適」な学び方があって初めて「個別最適な学び」は成立すると考える。そこで本単元では、課題選択の前段階で共通課題に取り組み、調べ方やまとめ方、発信の方法などを全体で指導する。この過程を経ることに

よって、学園生一人ひとりが自信と安心感をもって選択した課題に取り組みやすくなる。また、共通課題の段階で、学園生の実態把握ができ、授業計画の改善にいかすことも可能である。この部分は、国語科「たがいの立場を明確にして、話し合おう」「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」の2単元を中心に学習を進める。

「協働的な学び」については、より多くの視点や考えと出会う場づくりとして、様々なグループ分けで活動を進める。活動内容によっては指導者が意図的にグループを構成する場合もあるが、できる限り学園生の自律的な動きを目指している。「個別最適な学び」を通して出てくる疑問や困り感を解決する過程で、他者とつながることの価値を実感させることがねらいである。こういった自立的要素の強い「協働的な学び」が、自己調整力を高めるために有効な刺激になると考えている。

本時では、課題内容、進行状況、活動規模など一人ひとりが「違う」学習状況が想定される。学園生が自己調整しながら活動する姿を目指し、自立的な活動が困難な学園生には省察したり一歩踏み出したりできるようサポートを進めていく。具体的な手立てとして、進行順や取組方法、お互いの状況が把握できるように掲示したりデータを共有したりする。また、学園生の活動をより活性化につながる指導ができるよう指導者間の情報共有を徹底して授業に臨む。

3 国際理解の目標

- B A S I C－1（地理的項目－知識・理解）⇒【intake活動】
SDGsの概要や日本および諸外国の取組状況を知り、その主たる要因を理解する。
- B A S I C－2（文化・言語的項目－体験・経験）⇒【output活動】
諸外国と学園の実情を調査・比較することで、自分事としてSDGsと向き合い、様々な価値観を体感・実感することができる。
- B A S I C－3（情報発信・行動的項目－表現・意識）⇒【outcome活動】
自己選択した課題を学園で達成するために、諸外国の取組を調べ、それらを手掛かりに、提案・実践・調査を繰り返し、持続可能な世界をつくる行動者としての第一歩を踏み出す。

4 単元の目標

（1）単元全体の目標

自分の学園をより良くする取組を通して、持続可能な世界をつくる行動者としての第一歩を踏み出す。

（2）教科・領域ごとの目標

	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学びに向かう態度
国語科	○情報と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。	○目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。 ○互いの立場や意図を明確にしながらいずれも計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。	○粘り強く互いの立場や意図を明確にしながらいずれも学習の見通しをもって、身の回りの問題を解決するために調べたり話し合おうとしたりしている。

		<p>○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。</p> <p>○目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。</p>	<p>○粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。</p>
総合的な学習の時間	<p>○学園や地域の現代的な課題及びそれに携わる人々の願いがわかる。</p>	<p>○学園や地域の人々等の思いを踏まえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追及できる。</p> <p>○視点を明確にして、事実や関係と整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見つけることができる。</p> <p>○学習の仕方を振り返り、学習や生活にいかすことができる。</p>	<p>○課題解決に向けて、他者と協働して探究活動に取り組み、その大切さに気付く。</p> <p>○探求活動を通し、自分と実生活・実社会の問題解決に取り組もうとする。</p>

5 大空学園の研究にかかわって

本単元では、日本のSDGsにおける課題となっている項目を解決策のひとつとして、すでにその項目を達成している諸外国の取組を参考にする。その際に、日本でもその取組が有効であるかを考えたり、文化の違いから日本に適しているかを判断したりする場面が想定される。その過程で、自国の文化と自国と異なる文化を比較したり異文化を認めたり自分の文化の価値に気づいたりできるようにする。

また、単元後半では、学園・地域・家庭に対して実際に提案・実践・調査・改善を進める活動を行う。自分たちが考えた提案や取組を改善する機会が保障されることで、根拠となっていた自分の考えや行動を省察する場面が想定される。このように、「自分にできること」を考える場面を意図的に設定することによって、主体的に国際社会に参加しようとする態度をもつことができるようにする。

これらの活動を通して、自国の文化を大切にすると共に異文化や多様性を尊重し、主体的に行動しようとする学園生の育成を目指す。

6 指導計画

学習段階	授業の展開	評価の手立てと観点 □評価 ◆手立て
1次 8時間 (国語6総合2) (知る)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の基盤となる情報を全体で確認する。 ・共通課題に取り組み、全体で課題解決の流れや手立てを学ぶ。 	<p>□学習活動の過程や成果を記録したデータによるポートフォリオ評価</p> <p>(google ドキュメント・スライド・フォームなど)</p>
2次 10時間 (国語6総合4) (考える)	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した課題に取り組む。 ① 日本の現状を詳しく調べる ② 日本の対応策を調べる ③ 達成国の現状や取り組みを調べる ④ 日本の現状解決に向けた手立てを考える <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容を共有する。 ・共有した情報をもとに、学園や家庭、地域で自分ができる取組・発信を考える。 	<p>◆共通課題に取り組むことで、児童の実態を把握し、3次での学習支援をより具体化する。</p> <p>◆自己選択することで、活動への意欲を高めると同時に、交流場面では様々な視点に触れる機会を保障する。</p>
3次 10時間 (国語2総合8) (伝える) 【本時】	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をもとに考えた取組を校内、家庭、地域に発信し、意識の向上や課題解決を目指す。 ・提案→実践→分析→改善を繰り返し、よりよい活動を探求する。 	<p>□実際の活動の様子によるパフォーマンス評価</p> <p>(google ドキュメント・スライド・フォームなど)</p> <p>◆実践を振り返り、改善する時間を確保することで、粘り強く取り組んだり、自分を見つめ直したり意識を高める。</p>
4次 2時間 (総合2) (つなげる)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、何に気づき、何を得たのかをふりかえる。 	<p>□ふりかえりシートによる自己評価及び相互評価</p> <p>(google ドキュメント・スライド・フォームなど)</p> <p>◆学習活動での学びが、どのような場面で高めたり生かしたりできるかを、具体的にイメージすることで、学びの価値を高める。</p>

7 本時の目標

- 学園や地域の人々等の思いを踏まえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追究する。

8 本時の展開

主な学習活動	□評価 ◆留意点	●国際理解の活動
○前時まで取組状況を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題の種類 ・進行段階 ・活動規模 ・活動メンバー ○本時の取組内容を確認する。	◆進行順や取組方法、お互いの状況が把握できるように掲示したりデータを共有したりする。	
【課題】 世界につながる第一歩として、学園・家庭・地域で提案・実践・改善を繰り返し、意識の向上につなげよう。		
○それぞれの取組を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・対象の実態を調査する ・提案内容を考える ・提案方法を考える ・提案する ・調査する ・分析する ・改善段階を考える ・改善策を考える ・再提案する ○指導者が構成したグループで、お互いの取組状況を報告・協議する。	◆個々の取組状況に必要な情報をデータで共有しておく。 □調べた知識や情報を活用し、提案・実践・改善に取り組んでいる。 （実際の活動の様子によるパフォーマンス評価） ◆より多くの情報を共有するために、指導者が計画的に構成したグループで行う。	●自己選択した課題を学園で達成するために、諸外国の取組を調べ、それらを手掛かりに、提案・実践・調査を繰り返す。 【outcome活動】 ●お互いの取組状況について報告・協議し、よりよい手だてを探る。 【output活動】
【まとめ】 お互いの実践や反省から、より効果的な提案にいかせる視点・手だてを整理し、次の活動の見通しをもつ。		
○振り返りシートに記入する <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関する気づき ・取組の手立てなどに関する気づき 		●お互いの取組から、自分の実践にいかせる内容を整理する。 【intake活動】

第7学年 理科 学習指導案

日時 令和5年11月2日(木) 第3校時
生徒 7年B組 25名
授業者 増田 美次郎

1 単元名 第1分野「光・音・力による現象」 第1章 光による現象(啓林館 p206-227)

2 単元について

学習指導要領において本単元の目標は、『ア 身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。イ 身近な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。』と記載されている。光がある、音が聞こえる、物が動くなど、身近な現象であるために「当たり前」になっていることを改めて問い、学んでいく。

光の性質の学習では、光の「直進・反射・屈折」の規則性を学ぶ。太陽光や鏡、虹など身近な現象を例に挙げ、その仕組みを問うことで、光の性質に注目させる。光の性質には、どのような規則性があるのか、観察、実験を通じて見だし、身近な現象の仕組みについて考え、表現する。

7年B組の生徒は、授業に対して意欲的な生徒が多い。授業内容に関する知識や情報にも関心が高い。実験、観察においても、一人ひとりが丁寧かつ真面目に取り組むことができる。なお、光の性質について授業前の知識を確認した際には以下のような記述がされた。

・まっすぐ進む ・明るいところでは集結している ・光は人間よりも早く進む ・光速
・1秒に地球を何周もできるぐらい早くすすむ ・光がすべて反射して見える ・光のおかげで色が見える
※屈折について記述したのは25人中1人
・透明のものではそのまま進み、レンズに通すと光が屈折し光がまがる

上記のように光の単元に関しては不確かな知識が多かったので、身近な現象を題材にして、実験で確認するように、時間をかけて指導することにした。今回の光の屈折の学習も3時間構成で設定した。本時はその1時間目である。1時間目では虹を例に光が色ごとに分かれる現象を体験する。光の屈折に対する関心を高め、2時間目に実験からその規則性を見だし、3時間目に光の進み方について作図を用いて確認する。入射角と屈折角の関係は、混乱を招きやすいので、3時間目にはメタファーを使いながら、説明する。

3 国際理解の目標

- B A S I C-1 (地理的項目—知識・理解) ⇒ 【intake活動】
世界の虹の見え方を提示し、世界で虹の見え方が異なることを理解する。
- B A S I C-2 (文化・言語的項目—体験・経験) ⇒ 【output活動】
分光器の作成および屈折の実験を通じて、虹が見える原理について考える。
- B A S I C-3 (項目—情報発信・行動的体験・経験) ⇒ 【outcome活動】
虹が見える原理が同じでも、世界では見え方が違うのは、その色を表す言葉がなかったりするからである。世界で共通する科学と、その土地での捉え方である文化のちがいがあことを意識させる。

4 単元の目標

- ①光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折する時の規則性を見いださせる。
- ②世界共通のものである科学と、世界で異なるものである文化に注目させることで、価値観を広げ、他者と協力し、主体的に行動しようとする意欲と態度を育成する。

5 大空学園の研究にかかわって

大空学園の研究では、「異文化を認めること」や「異文化や多様性の尊重」を目指す子ども像としている。同じものでも見る人の文化によって捉え方が異なるという例を通じて、価値観を広げる一助としたい。

6 指導計画

	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	光源 光の直進 光の反射 光の屈折 ものが見えるしくみ	光には直進、反射、屈折の3つの進み方があることを理解している。		身のまわりにある光を利用しているものを考えている。
2	反射の法則 入射角＝反射角	入射角を変えた時の反射角を測定することができる。		入射角を変えた時に反射角がどう変化するのか、繰り返し実験を行い調べている。
3			反射の法則を使い、問題を解くことができる。	
4	像 光の道すじの作図	鏡で光が跳ね返る時の規則性を理解している。	像の位置を考え、光の道すじを図で表現することができる。	
5 本時	光の色 屈折の規則性 〈空気→ガラス・水〉	白色光には様々な色が混ざっていることを理解している。		虹の原理と世界での見え方について学び、ものを見方を広げることができる。
6	入射角>屈折角 〈ガラス・水→空気〉 入射角<屈折角	入射角を変えた時の屈折角を測定することができる。		入射角を変えた時に屈折角がどう変化するのか、繰り返し実験を行い調べている。
7	全反射 光の道すじの作図		光の屈折の規則性を使い、問題を解くことができる。	
8	焦点、焦点距離 光軸 実像、虚像	凸レンズと物体の距離によって像の位置や大きさ、向きが変わることを調べることができる。		物体の位置を変え、繰り返し実験を行い、像の大きさや向きの規則性を見いだそうとしている。
9	光の道すじの作図	凸レンズを通る光の進み方を作図で表すことができる。		

7 本時の目標

- 白色光には様々な色が混ざっていることを理解している。
- 虹の原理と世界での見え方について学び、ものを見方を広げることができる。

8 本時の展開

○主な学習活動	□評価 ◆留意点	●国際理解の活動
○前時の学習の小テスト ○課題の把握	□知識・技能	
【課題】 なぜ虹が空に見えるのか。		
○虹を思い出し、色の順番を思い出す。 ○プリズムで光が分かれる様子を見る。【演示実験】 ○ペットボトルと水で虹を作る。【演示実験】	◆正確に思い出す必要はない。アイズブレイクとして行う。	●実験を通じて、光にはいくつか色があることを学び、虹ができる仕組みを考える。 【output 活動】

<p>○分光器を作成し、観察する。 見えた色をワークシートに記入する。【生徒実験】</p> <p>○見えた色を交流する。</p> <p>○課題について考察し、交流する。</p> <p>○原理の説明とワークシートへの記録</p> <p>○世界の虹を紹介する</p> <p>○同じ原理でも、見える色が違う理由を考える。</p> <p>○本時で学習したことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>【実験】分光器の作成と光の観察</p> <p>①紙コップの底に小さな穴をあける。 ②底面に1cm四方の分光シートをはる。 ※1人1個作成する。</p> <p>◆他の人の見え方に注目させる。</p> <p>◆Google Jamboardの活用</p> <p>虹が見える原理 雨粒に当たった光が雨粒の中で屈折と反射する。光によって屈折率が異なり、色ごとに分かれる</p> <p>色が違う理由 ①表現する言葉がない ②色に対するこだわりのちがい</p> <p><input type="checkbox"/>知識・技能 <input type="checkbox"/>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>●虹が見える原理（科学）は同じだが、見え方（文化）は異なることを学び、価値観や異文化に対する視野を広げる。 【intake 活動】</p>
<p>【まとめ】（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の中には様々な色が混ざっている。 ・ものを通すと光の色は分かれる。それが見えているのが虹。 ・人によって見え方が違う。それを知るのも大切だと思った。 		

※授業資料

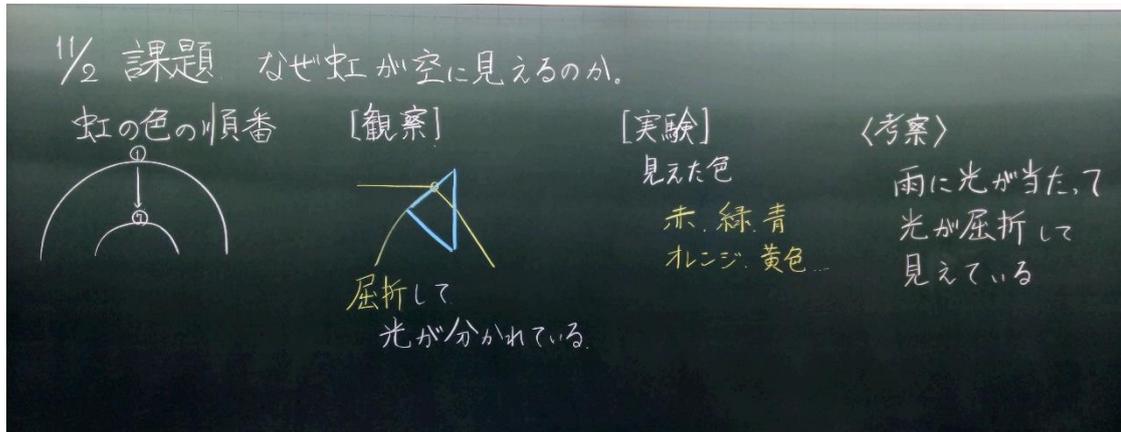
モニター①（虹の画像）



モニター②（世界の虹の比較）



板書計画



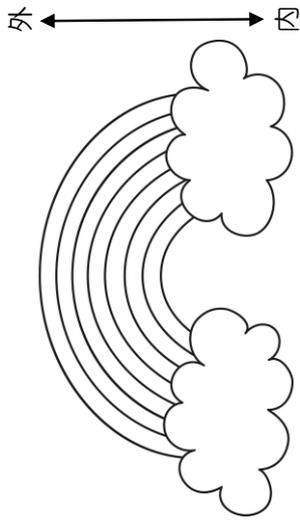
ワークシート

No. X 光の色 (p. 218-219) 令和5年 月 日

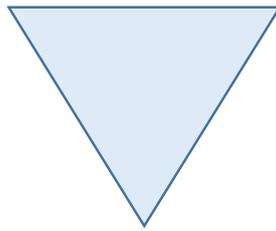
7年 組 番 名前

課題

【問】虹の色、外側から順に答えなさい。



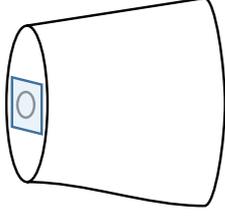
【観察】プリズムに光を当てた時の様子を記録する。



【実験】分光器を作成し、光の色を観察する。

- ①紙コップの底に小さな穴をあける。
- ②底面に1cm四方の分光シートをはる。

何色が見えた？



Blank rectangular box for recording the observation results.

【考察】観察と実験の結果をもとにした上で、課題に対するあなたの考え

☆まとめ《今日わかったこと、大切だと思ったこと》

☆Help 《今日わがかりにくかったこと、疑問に思ったこと》

第8学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日時 令和5年11月2日(木) 第2・3校時
生徒 8年A組 23名・8年B組 24名
指導者 上野 嗣弥・神下 朋実・尾崎 弥生
(技術) ・ (美術) ・ (国語)

1 単元名 「総合福祉デザイン～自助具を製作しよう～」

2 単元について

現在、STEAM 教育の推進が求められている。Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (狭義では芸術、広義では Liberal Arts (リベラル・アーツ))、Mathematics (数学) の頭文字を取ったものである。これらの内容を相互に行き来し、各教科で学習した内容を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教育がSTEAM教育と定義されている。また、カリキュラムマネジメントの一側面である教科横断的な視点としても教科の枠を超えたカリキュラムデザインが必要となっている。

昨年度、教科の内容に類似性のある技術科と美術科を横断し、その知識・技能を用いながら、問題解決的な学習を設定できないかと考え、自助具とよばれる福祉用具を3Dプリンタで製作する授業を実践した。美術科での「デザイン」の授業と、技術科での「情報技術・工学」の授業を基礎としながら、総合的な学習の時間でそれらを活用し、問題解決のプロセスを学ぶことができる内容である。今年度については、それらに加え、プレゼンテーションの知識・技能をより高めるという視点で、国語科とも連携しながら、授業を構築してきた。

美術科では、デザインが『使う人のためにされる』ということを前提に「ユニバーサルデザイン」の考え方である、大人でも子供でも、障がいがある人もない人も、どんな国籍の人でも一目で見て使い方が分かり、「誰でも使いやすいデザイン」を学習した。

その後、校内にあるユニバーサルデザインを発見する活動を行い、小中学生と一緒に生活するという特徴や、外国籍の児童生徒が多いという特徴のある本校には「誰でも使いやすい」「日本語を理解していなくても分かる」デザインが多用されていることを発見することができた。

本来自助具は、障がいや病気で生活上の困難を抱えた方に対し「生活上の困難を少なくして自力で生活するために作られるその人に寄り添った道具」を指し、「その人」の状況に焦点を絞って製作するものである。しかし、障がいや困難を抱える方のために作った自助具は、健常者が使用しても快適であるものが多い。発表会での意見、振り返りなどでその事実気づかせることと、「ユニバーサルデザイン」の事前の学習によって、一度焦点化された視点を「世界」に向けて広げることができると考えた。

生徒の実態としては、7学年の時に、技術科の「材料と加工に関する内容」という学習の中で、3DCAD ソフトである Tinkercad を利用し、タブレットを便利に使うための製品を木材を用いて製作した経験をしている。しかし、3次元の物の見方は十分に育ってはおらず、Tinkercad の扱いにも非常に苦労している生徒が多かった。また、発言や発表についても、一部の活発な生徒が発言し、他の生徒はなかなか発言できない様子も見られた。

8学年に進級し、日常の指導や本授業を通して、活発な話し合い活動や、発表活動、問題解決学習に取り組み、3次元的な物の見方や発想力、デザイン力、コミュニケーション能力を高めることができた。その集大成としての発表活動ということもあり、生徒には自信をもって発表をできるよう準備を行わせたい。

3 国際理解の目標

● BASIC-1 (地理的項目一知識・理解) ⇒ 【intake活動】

言語が違って、文化が違って、年齢や性別など多種多様な人が一目でみてわかるようなデザインが「ユニバーサルデザイン」だと理解し、限定的な「バリアフリー」と、より多様な「ユニバーサルデザイン」の考え方や違いを知る。

● BASIC-2（文化・言語的項目一体験・経験）⇒【output活動】

誰もが使いやすいデザインを見つける活動を通して、自分の学校に生活している小学生や外国籍の児童生徒にも使いやすいデザインになっていることを発見・理解し、『使う人のためにデザインする』というデザインをするための視点の重要性について理解する。

自分の担当する患者さんの病状や障がいの状況に合わせて自助具を設計・製作することを通して、グループ間内での意見交流の重要性や「その人を思いやりながら」デザインをする重要性に気付く。

● BASIC-3（項目一情報発信・行動的体験・経験）⇒【outcome活動】

製作した自助具を、プレゼンテーションで紹介し、感想や意見、自分たちの振り返り活動を行う。

一連の活動を通して、「ある特定の人に向けて作った自助具」が、「健常者の私たちも使いやすいもの」であることに気づかせる。結果『ユニバーサルデザイン』の考え方に帰着する。

4 単元の目標

自助具を求める人たちの障がい・病態に応じたデザインを自分自身で考え、誰にでも使いやすいデザイン（UD）を理解し、3DCAD や3D プリンタを用い、オリジナルの自助具を作成し、その意図や仕組みについて、図や写真などを使って効果的に発表することができる。

5 大空学園の研究に関わって

【必要感のある課題と展開】

本授業は一貫して「日常生活で困っている人のための『自助具』を作り上げる」という課題を追求し、その人のためにどのようなデザインをすればよいか、そのために3Dプリンタをどう活用すればよいかを探究してきた経緯がある。学校教育の抱える課題として、「設定された課題が社会とのつながりが薄い」というものがあり、なかなか必要感がある課題提示ができないことが多い。しかし、今回は自分たちが製作した自助具が実際に人のために役立つという「社会とのつながり」が深いものとなっており、必然的に「自分事」の必要感のある課題として生徒もとらえることができる。

【根拠をもった思考の広がり（話し合い・まとめ）（教科部会③で設定）】

美術科でのデザインの授業を通し、デザインをどのように作り出していくのかということや、そのデザインを発表した際のフィードバック、実際に3Dプリンタを利用して自助具を印刷した後など、様々な場面で生徒自身が互いに話し合いを行いながら課題解決に向けて活動を行った。その際には、どう改善すべきかを論理的に伝えたりしながら、根拠をもって話し合う様子が見られた。本時では、それらの学習した内容を端的に分かりやすく根拠をもった内容となるようまとめさせ、発表させたい。

6 指導計画

時間	学習活動（教科）	評価の観点等
2	・Tinkercad（3DCAD ソフト）の使い方と3Dプリンタの使用法（技術）	【知①】（Tinkercad のファイル、ワークシート） ・Tinkercad を利用して3D の製作物を作成できている。
1	・福祉用具体験（総合）	【態③】（行動観察・ワークシート） ・福祉用具の説明や体験に意欲的に参加している。
2	・ユニバーサルデザイン（UD）の学習（美術）	【知②】（ワークシート） ・UD について理解することができている。
1	・求められている自助具の説明（総合）	【知③】（ワークシート） ・自助具の利用者の障がい・病態についてメモをし、どのようなものが必要か理解できている。
2	・求められている自助具のアイディアスケッチ（美術）	【知⑤】（アイディアスケッチの記述） ・障がい・病態に配慮しながら、材質などの制約を考えながら、デザインをすることができている。

		<p>【思①・④】（アイディアスケッチの記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な効果を考え、構想を練っている。 <p>【態①】（アイディアスケッチの記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人の立場にたって、自助具のデザインを考えている。
9	・3DCADによる設計・3Dプリンタによる射出・成形（技術・総合）	<p>【知①】（データ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインをTinkercadで表現することができる。
6	・最終発表の準備（国語・総合）	<p>【思③・④】（発表スライド）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図や写真などを使って、効果的な発表になるよう工夫したスライドを作っている。 <p>【態②・③】（行動観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協働して準備活動に意欲的に取り組んでいる。
1	・成果発表会（総合）（本時）	<p>【知④・思③】（発表の状況・発表スライド）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・的確な声の大きさや話すスピードに気を配りながら、スライドで発表することができる。
1	・振り返り	<p>【態③】（アンケートの結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、本授業の取組でどのような力をつけることができたか、内省することができる。

（計 25 時間：技術 4 時間・美術 4 時間・国語 4 時間・総合 13 時間扱い）

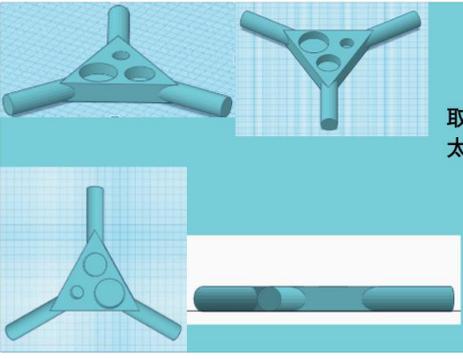
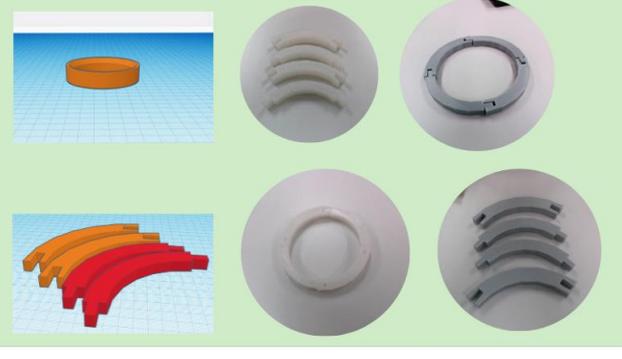
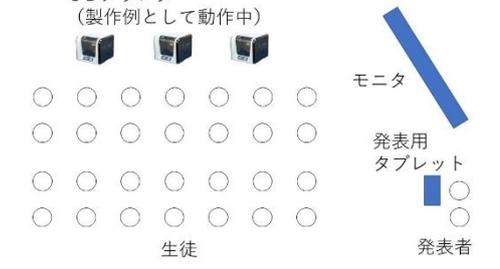
（単元の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 3DCAD や 3D プリンタの使い方を理解している。</p> <p>② 誰にでも使いやすいデザイン (UD) を理解している。</p> <p>③ 自助具を求める人の障がい・病態を理解し、どのようなデザインが必要か理解して、問題解決をすることができる。</p> <p>④ スライドの作成や原稿書きなどの発表の準備をすることができる。</p> <p>⑤ 形や色彩、材料に着目し、材料や用具の特性を生かし、見通しをもって表す。</p>	<p>① 自助具を求める人たちの障がい・病態に応じたデザインを自分自身で考えることができる。</p> <p>② 問題解決に必要な情報について、手段を選択し多様な方法で取得している。</p> <p>③ 図や写真などを使って効果的に発表することができる。</p> <p>④ 機能の美しさの調和、使う人や場所などを元に、形や色彩の美しさ、人への優しさなどの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。</p>	<p>① 使う人の立場や気持ちを考えてデザインすることに関心を持ち、自助具のデザインについて、解決に向けて自ら意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>② 自助具のデザイン等を通して、他社の考えを生かしながら協働して問題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 積極的に体験活動や、発表準備・発表活動、まとめ活動に参加している。</p>

7 本時の目標

- 一人ひとりが発表者となり、準備してきた内容を的確に分かりやすく説明することができる。

8 本時の展開

主な学習活動	□評価 ◆留意点	●国際理解の活動
<p>○ブースにそれぞれ集まり、発表の準備を行う。 ○現在までの学習の振り返りを5分程度の動画で確認する。 ○本時の目標を確認する。</p> <p style="text-align: center;">【課題】 一人ひとりが聞き取りやすい声で分かりやすい発表活動を行う。</p>	<p>◆発表の役割について分担を再度確認する。</p>	<p>●UD から国際理解について想起する 【intake 活動】</p>
<p>○8分交代でそれぞれのブースで発表を行う。</p> <p>○聞いている側はそれぞれのデザインや自助具に対する工夫について評価を行い、付せんに記述してブースにある用紙に貼り付ける。</p> <p>〔生徒が作成した自助具（例）〕</p> <div data-bbox="183 734 842 1339" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自助具名：キャップリン 対 象：パーキンソン病など、手の震えがあったり握力が弱い方 特 徴：様々なフタの大きさに対応</p>  <p style="text-align: right;">色 水色 取手 80,00mm 太さ 20,00mm 大 38,00mm 中 30,00mm 小 17,00mm 取手の間 100,00mm</p> </div> <div data-bbox="183 1395 842 2000" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自助具名：るんるんキャリー 対 象：脊髄小脳変性症など立つとふらついてしまう方 特 徴：運ぶのが楽、何種類も皿をおける</p>  </div>	<p>□知技④ (発表の様子の見取り)</p> <p>〔発表形式のイメージ〕</p> <div data-bbox="893 779 1433 1093" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3Dプリンター (製作例として動作中)</p>  <p>出入口</p> </div> <p>□思判表③ (発表スライド)</p> <p>◆場に応じた的確な声の大きさや話すスピードに気を配りながら、スライドで発表できているか確認する。</p>	<p>●それぞれがデザインした自助具について相手を思いやる工夫を知り、考える。 【output 活動】</p> <p>●自分の学校に生活している前期課程児童や外国籍の児童生徒にも使いやすいデザインになっていることを改めて確認する。 【output 活動】</p> <div data-bbox="893 1496 1417 2056" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自助具名：ラクラク爪切り 対 象：左脳出血などで、手で爪が切れない方 特 徴：脇などで体重を乗せれば爪が切れる</p>  </div>

<p>【まとめ】一人ひとりが発表者となり、準備してきた内容を的確に分かりやすく説明することが大切。</p>	<p>◆質疑応答で出てきた内容についても交流するよう促す。</p>	<p>●言語が違ってても、文化が違ってても、年齢や性別など多種多様な人が一目でみてわかるようなデザインの大切さについて確認する 【outcome 活動】</p>
<p>○自分たちのブースに戻り、自らの発表について自己評価を行う。</p>		

日 時 令和5年11月2日（木）第3校時
生 徒 後期課程知的学級（7～9年）7名
指導者 福田 翔・筒井 美有

1 単元名 「いただきます」からつながる世界

2 単元について

普段何気なく口にしている食べ物だが、国が変われば同じ食材でも違う料理になる。また、同じ料理名でも違う食材を使い、全く違う味になることがある。本単元では、生徒たちも身近であるカレーライスを題材に日本と世界を比べ、国際理解につなげていきたい。

その土地によって味が変わるのは、その土地の環境や歴史、文化が違うからである。その国の料理にはその国の人たちが大切にしてきた文化が詰まっているとも言える。人によって、口に合う、合わないはあるが、その土地の文化を知り、理解しようとすることで、味わいも変わってくるのではないだろうか。

このように、違いを受け入れようとすることは人との関わり方にも繋がる場所があると考えられる。生徒達も一人ひとり違った環境で育ってきた歴史があり、得意不得意も様々である。料理を題材に日本との相違点や共通点を探す活動を通して、お互いを尊重し合える心を育てていきたい。

3 国際理解の目標

● BASIC-1（地理的項目－知識・理解）⇒【intake活動】

世界の食べ物と日本の食べ物を比べ、同じ食材でも違う料理になったり、その国ならではの食材があったりすることを知る。

● BASIC-2（文化・言語的項目－体験・経験）⇒【output活動】

食文化の背景には、その国の環境や習慣、歴史が関わっていることに気づかせる。

● BASIC-3（情報発信・行動的項目－表現・意識）⇒【outcome活動】

異なる文化について相違点や共通点を理解しながら、相手を尊重するために大切なことを考えることができる。

4 単元の目標

世界と日本を比較する活動を通して、互いの国を尊重することの大切さに気づき、一人ひとりの違いを認める心を育成する。

5 大空学園の研究にかかわって

研究主題の「互いの文化を尊重し、多様な世界で生きていく国際実践力の創造」に関わり、スリランカと日本を比較する学習活動を中心に置いた。比較することで日本の優れている点が見えてくるが、同時に相手の国を尊重する必要性も生まれる。相手を尊重するためにどのようなことが大切なのかを考え、実践できるように指導していきたい。

6 指導計画

学習段階	授業の展開	評価の手立てと観点 □評価 ◆手立て
1次（1時間） （知る）	オリエンテーションを行い、学習の見通しを持つようにする。	□ワークシート
2次（3時間） （調べる・見つける）	スリランカのカレーを作り、食事をする中で、日本のカレーライスとスリランカのカレーライスの共通点、相違点を調べる。	□発表 ◆手順がわかる資料
3次（1時間） （考える） 【本時】	JICAの方を招き、スリランカの国について話を聞く。スリランカと日本の文化を比べ、お互いの文化について共通点と相違点を考え、文化を尊重するために大切なことを考える。	□発表、ワークシート ◆通訳する方 ◆比較しやすいような板書
4次（1時間） （考える）	一人ひとりの違いを認めるために自分ができることを考える。	□ワークシート ◆前時までの資料
5次（1時間） （伝える）	前時で考えた内容をもとに、お世話になったJICAの方にお礼の手紙を書く。	□手紙 ◆手紙の見本

7 本時の目標

- 日本とスリランカの国を比較し、共通点や相違点があることを理解するとともに、互いの国を尊重するために大切なことを考える。

8 本時の展開

主な学習活動	□評価 ◆留意点	●国際理解の活動
○講師の紹介	◆通訳を介して、紹介する。	
○前時の振り返り ・カレー作り ・味や食材についての共通点、相違点	◆前時の写真やワークシートを提示し、学習内容を思い出せるようにする。	
【課題】スリランカと日本の似ている所と違う所はどこだろう？		
○スリランカについての習慣や生活について話を聞く。	◆写真やイラストを提示し、理解しやすいようにする。	●スリランカについての基本的な情報を知る。 【intake活動】
○日本との共通点や相違点を考える。	◆比較しやすいように項目ごとに並べて提示する。	●日本との共通点や相違点を話し合う。【output活動】

[相違点の例]

日本

私たちは日々、箸やスプーン、フォークなどを使って食事をしているね。



スリランカ

手で食べるって本当なのかな？ どうして手で食べているのかな？ 聞いてみよう。



○どちらの国も自国を大切にしていることに気づく。

◆一方が優れていて、一方が劣っているのではなく、どちらも自分の国を大切にしていることに気づかせる。

【まとめ】 国によって習慣や生活は違うが、自分の国を大切にしている所は同じ。

○互いの国を大切にするために大事なことを考える。

・相手の国のことを知ろうとすること。

・違いがあっても良いと思う。

・いろいろな考えの人がいて当たり前だと思う。

・相手が何を大事にしているかを考えて行動する。

・思いやりをもって接する。

◆日常生活で友達と感覚や意見が違った時を想起させ、相手の気持ちを大切にするときはどうするかを考えさせる。

◆参考になる意見を取りあげる。

□お互いの国を大切にするために、思いやりのある考えを持つことができる。

●互いの国を大切にするために大事なことを発表する。

【outcome活動】



**第 44 回北海道国際理解教育研究大会
十勝・帯広大会実行委員会**

【事務局】帯広市立啓北小学校

〒080-0044

北海道帯広市西 14 条北 7 丁目 3

TEL 0155-36-7754

FAX 0155-36-8770